artfair.3331.jp

2019 03 06 wed
—— 03 10 sun

3331 ART FAIR

アートフェアという
創造の場。

Organized by
3331 Arts Chiyoda

3331 ARTS CYD

開催報告書

目次

1. 開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・02

2. 数値報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・03

3. プライズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・04

プライズセレクターについて
プライズセレクター一覧
コレクター・プライズ結果発表
3331 ART FAIR レコメンドアーティスト、
オーディエンス・プライズ結果発表

4. 館内見取り図・・・・・・・・・・・・・・・・・14

5. 1F メインギャラリー・・・・・・・・・・・・16

出品作家
作家推薦者・推薦団体
特別企画展「遊殺・以後」ー高山登、椿昇、
日比野克彦、藤浩志、堀浩哉
会場レイアウト

6. 屋上エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

作家推薦者・出品作家
会場レイアウト

7. 2F 体育館エリア・・・・・・・・・・・・・・29

出展ギャラリー・団体
会場レイアウト

8. 教室エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

出展ギャラリー・団体
会場レイアウト

9. パブリックエリア／サテライト会場・・・39

階段室／再現壁画 ー 佐々木耕成
2F 体育館舞台 ー サカタアキコ
／1F エントランス ー 中村政人
2F 211 ／ B1F 通用口 ー 高山登
3F 313 ー 井上 尚子＋白須 未香
「匂いの図書館 / The Library of Smell」
階段室／ウッドデッキ ー 鈴木昭男
パブリックエリア会場レイアウト
サテライト会場 NOHGA HOTEL UENO

10. 関連イベント・・・・・・・・・・・・・・・・・48

イベント概要

11. 3.11 チャリティオークション
@3331 ART FAIR 2019・・・・・・・・・57

開催概要
寄付報告

12. パートナーシップ・・・・・・・・・・・・・ 60

パートナー団体様一覧
パートナー団体様との連携例

13. デザイン／サイン計画／各種広報物・・・65

ロゴ・キービジュアル
サイン計画
各種広報物
ガイドブック
ほか、制作物

14. 広報・プレス・・・・・・・・・・・・・・・・・71

掲載実績
プレスリリース
WEB
SNS

15. 各種アンケート・・・・・・・・・・・・・・・79

来場者アンケート
アーティスト・プライズセレクター・来場者の声
出展ギャラリー・団体の声

16. アートフェアという創造の場。
フェアを作った人々・・・・・・・・・・・・ 86

開催概要

3331 ART FAIR
Organized by 3331 Arts Chiyoda

■名称：3331 ART FAIR 2019

■会期：2019年3月6日（水）～10日（日）　5日間

■会場：3331 Arts Chiyoda

■会場住所：〒101-0021　東京都千代田区外神田6丁目11-14

■時間：3月6日（水）　[ファーストチョイス]14:00-　[一般公開]17:00-20:00
3月7日（木）～9日（土）　12:00-20:00
3月10日（日）　12:00-18:30
※会期中の最終入場は閉場30分前まで

■料金：一般 1,500円（入場チケットのみ）、1,700円（ガイドブック付入場チケット）
シニア（60+）・学生 1,300円（入場チケットのみ）、1,500円（ガイドブック付入場チケット）
※期間中再入場可 ※教室エリア無料（一部要入場券）※高校生以下無料 ※千代田区民は身分証明書のご提示で無料
※障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方1名は無料

東京アートパスポート 6,500円（税込）
※「3331 ART FAIR 2019」「アートフェア東京2019」「ART in PARK HOTEL TOKYO 2019」をお得に周遊する共通入場券です。特別協力美術館の特典付。

■主催：3331 Arts Chiyoda

■後援：千代田区、一般社団法人千代田区観光協会、アーツカウンシル東京、中華人民共和国駐日本国大使館文化部、駐日韓国大使館 韓国文化院

■協賛：株式会社丹青ディスプレイ、日本ペイント株式会社、株式会社ビビビット、COEDOBREWERY

■協力：アートのある暮らし協会、（一社）コマンドN、ストリートメディア株式会社、ソフトバンクロボティクス株式会社、ダイヤモンドコート、tokyobike、パトロンプロジェクト、美術Academy&School、株式会社ワークス・クリエイティブ、ワンピース倶楽部、OSAJI、3331 Galleries

■パートナーホテル：NOHGA HOTEL

■メディアパートナー：月刊ギャラリー、ハフポスト日本版、美術手帖、美術の窓、Art Collectors'、ART iT、BNL、CINRA.NET、DIYer(s)、The Chain Museum、Tokyo Art Beat

■パートナーイベント：アートフェア東京2019、ART in PARK HOTEL TOKYO 2019

■URL：https://artfair.3331.jp/

数値報告

■総来館者数

来場者数：22,206 人（5 日間）　※前年比：110% 増

1 日平均：4,441 人

〈参考〉2018 年来場者数：20,140 人（5 日間）

■出品作家、出展ギャラリー・団体

総出品作家：220 組（重複作家を除く）

作家推薦者：17 組（10 名／7 団体）

総出展ギャラリー・団体：36 団体

〈内訳〉

[メインギャラリーエリア（1F）]

出品作家：68 組

作家推薦者：17 組（10 名／7 団体）

[体育館エリア・体育館エリア サテライト（2F）]

出展団体：24 団体（ギャラリー 14 ／大学 8 ／美術団体 2）

出品作家：114 組

[教室エリア（B1F・2F・3F）]

出展団体：12 団体　（ギャラリー・団体 10 ／アーカイブルーム 2）

出品作家：14 組

[屋上エリア]

出品作家：7 組

[パブリックエリア（1F・廊下 他）]

出品作家：2 組

[企画展・特別展示]

出品作家：6 組　（企画展 5 組／特別展示 3 組 ＊重複作家を除く ）

[サテライト会場 I NOHGA HOTEL UENO]

出品作家：2 組

■プライズセレクター

106 組

3. プライズ

プライズセレクターについて

■概要

3331 ART FAIR 2019 では、著名コレクターから企業人、クリエイターなど、各界のキーパーソン 106 名に「プライズセレクター」としてアートフェアにご参加いただきました。

プライズセレクターが購入した作品には「コレクター・プライズ」が授与され会期中会場内で順次発表し、受賞者の中から 3331 Arts Chiyoda が選出したアーティストに作品発表の機会が与えられます。

またこの度の開催では株式会社 The Chain Museum と連携し、2018 年開催まで実施していたアーティスト支援の取り組みのひとつ「コレクター・ドネーション」に代わり、アーティスト支援アプリ「ArtSticker」（アートスティッカー）を導入いたしました。プライズセレクターの方々には本アプリを通じて、応援したいアーティストに多くのドネーションを贈っていただきました。

日本では、現代美術の作品を購入して住空間に展示し、日々の生活の中で美術を楽しむ文化がなかなか浸透していません。小さな作品でも、作品を購入することは作家を直接支援することであり、芸術と芸術家たちを社会の中で育てていく第一歩であると 3331 Arts Chiyoda は考えています。

3331 ART FAIR 2019
プライズセレクターご参加の仕組みとプライズ授与の流れ

プライズセレクターの方が購入された作品に賞が授与されます。
コレクター・プライズとは、「作品を購入すること」＝「作家に賞を授与すること」。

プライズセレクターとして参加する
＊実名・セレクターネーム（社名等）＊ご希望により匿名でのご参加も可

対象
アートフェア会場内の購入可能な作品全て

選出方法
- 作品を購入 ＊後日、賞に寄せたテキストを頂戴いたします
- 該当作品なし（作品を購入しない）

プライズの授与 ～ 発表まで

会期中
- コレクター・プライズの授与
  ＊プライズセレクター名を冠したオリジナルの名称（プライズ名）にて授与
  ＊匿名でのご参加の場合は匿名にて授与
- 結果発表（館内）
  ＊賞の結果は会期中、会場内の掲示板にて随時発表

会期終了後
- 結果発表（WEB）
  ＊賞に寄せたテキストと共にWEBに掲載
  ＊いただいたテキストは、後日報告書等にも掲載させていただきます

3331 ART FAIR レコメンドアーティストの選出
コレクター・プライズならびにオーディエンス投票等の結果をふまえ、3331 Arts Chiyodaが選出した若手作家が3331 ART FAIR レコメンドアーティストとして3331 Arts Chiyoda内で個展を開催

コレクター・ドネーション × The Chain Museum
前回までご好評をいただいていたアーティスト支援への取り組みのひとつ「コレクター・ドネーション」は、<The Chain Museum>と連携した新しいシステムとして生まれ変わります。 ※詳細は2月以降のThe Chain Museumの情報公開に合わせ、ご案内いたします。

プライズセレクター一覧

Art Collectors'
アートのある暮らし協会
ART BASE 88
AO NOSE
adNote
安藤雄二
石鍋博子
伊藤洋志
稲葉智子
井上智治
猪熊敏博
岩垂なつき
上田欽一
NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ｜AIT
大石哲之
大西正紀
大原高文
大森洋三
太下義之
小野道生
皆藤将
株式会社アフタヌーンソサエティ
株式会社道明
亀井博司
川村喜久
キース・ウィトル
北野和浩
木下栄三
久保金司
グラン☆ロボティック
（ヒトと機械と社会との劇的関係性）
月刊ギャラリー
小金沢智
近藤俊太郎
近藤威志
堺谷円香
櫻内昌雄
笹川直子
佐野吉彦
沢登丈夫
施井泰平
柴山哲治
嶋津充（ワンピース倶楽部）
島林秀行
白木聡
須川和也
杉浦太一
鈴木真梧
住吉慶太
傍嶋賢
高井勇輝
武内竜一
太刀川英輔
田中元子
玉置泰紀
株式会社丹青ディスプレイ
田中英雄
ツツミエミコ
リンダ・デニス
寺内俊博
遠山正道
特定非営利活動法人
Art & Society研究センター
徳光健治
野老覚
中尾豪
中川剛
長瀬千雅
中村政人
長屋博
西山沙樹
西山学
パトロンプロジェクト
菊池麻衣子
長谷川一英・恵美子
花房太一
馬場兼伸
林暁甫
林直樹
早見堯
彦根延代
広江一也
福井淳子
風澤俊一
藤村滋弘
藤谷けい
船山雅史
細田真一
堀内勉
奔保彰良
マーサン
前川俊作
松下憲史
松波ゆう大
丸山裕貴
丸山晶崇
三沢恵子
都橋はる美
森下泰輔
安田逸美
柳正彦
山口栄一
山本敦子
山本謙一
吉田キョウ
米山貴司
渡辺実
匿名（アートコレクター）
匿名（某美術館学芸員）

（五十音順、匿名除く）

プライズセレクター参加数
106名（匿名含）

〈パートナー特別プライズ〉
NOHGA HOTEL

コレクター・プライズ 結果発表

Art Collectors'［Art Collectors' 賞］

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

スクリプカリウ落合安奈の「明滅する輪郭」シリーズは、日本とルーマニアという二つのルーツを持つ落合が、祖国で撮影した人々の顔にビニールを縫い付けている。そのビニールによって〈呼吸〉を可視化し、自己と他者がアイデンティティを越えて空気を共有していることを作品化している。表面的には息の詰まるような作品だが、自身のルーツや実体験を基盤とした内的世界を他者と共有する手法が優れている。今後も意欲的な活動を期待していきたい。

アートのある暮らし協会［ALSA 大賞］

宮北裕美（メインギャラリー）

いつかこの目で舞われている姿をみたいです。“身近なものに踊ってもらう”すてきですね。

村山悟郎（体育館／東京藝術大学 中村研究室）

菊地暁子（体育館／秋田公立美術大学）

ART BASE 88（宮本初音）［ART BASE 88（宮本初音）賞］

楊珪宋（メインギャラリー）

気がつけば 3331 ART FAIRでは毎回植物をテーマにした作品を買っているようです。道ばたにふと目をやって目を離せないそんな感覚に光を当ててハッとさせてくれる作品です。

寺江圭一朗（メインギャラリー）

2014 年の動画は以前観て面白いなーと思っていました。石シリーズの展開に期待します。

李文（体育館／ 3331 Arts Chiyoda）

訃報に接し、悲しい想いでいたら、3331 に青い鳥がいました。アジアの新しい窓をあけた李文に感謝します。

AO NOSE［AO NOSE 賞］

青山夢（体育館／東北芸術工科大学）

青山さんの作品を見た瞬間、その力強く妖艶でアイロニカルな作風に引き込まれました。私自身作家でもあり、20 代の頃は横尾忠則や丸尾末広などに影響を受けた作品を作っていたのですが、金箔や貝シートを贅沢に使い油彩やテンペラで仕上げるなどとは思いもよりませんでした。高級なアングラカルチャーに触れられたようで感激し、気が付いたら購入しておりました（笑）。そして聞けば、西洋絵画に日本史を取り入れたとの事。過去の名画がふんだんに盛り込まれている事や、現在、美大で美術教育を受けられている事なども鑑みても美術史教育に重きを置く AO NOSE 賞に相応しいと思いました。今後の更なるご活躍を楽しみにしています！　AO NOSE ／山内康嗣

adNote［adNote 賞］

宮北裕美（メインギャラリー）

時間とともに消えゆく音・動作・光ー。
ダンサーや音楽家は、時間の流れに身をゆだね、その場に立ち止まることを許されていない。その神聖ともタブーとも言える領域に果敢に踏み込んだのが宮北である。映像作品「Drift」とともに展示された「Drift Trace Side」は、ダンサーが空間に紡ぎ出す動作を写し取ったかのようだが、止まっているはずのアクリルプリントからはその先にある動きや時間をより一層感じられた。「静」の中に「動」を生み出すダンサーならではの感性が光る作品である。

石鍋博子

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

伊藤洋志［アートデモクラシー賞］

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

おそらく日本のものとおぼしき写真、とにかくたくさんの人が水遊びをしている。そして全ての人の顔の部分が「呼吸」を見る者に意識させるビニールで覆われている。日本における白黒写真は 1960 年代以降や江戸時代以外のものは、どうしても戦争の存在を想起させる。写真そのものには、ある夏の遊びの風景が展開されていて無数の人生の瞬間がある。
これが、国内においては戦争の気配の遠かった大正時代のものなのか、戦後すぐの開放感に溢れた風景なのかは分からない、分からないからこそ、このような風景の得難さを思い起こさせもするし、端的に公共の遊び場の快活さを見ることもできる。
アートデモクラシーなど大仰な賞を設定したものの、何をもってアートデモクラシーなのか、というのは当日まで決めかねていた。より民主的なアートの流通を試みている作家を選ぶことを想定していたが、結果的に民主的であることまたパブリックそのものを考える機会を得た本作を選んだ次第である。

稲葉智子［稲葉智子賞］

牛島光太郎（メインギャラリー）

牛島光太郎さんは、詩的ともナンセンスとも言えるような文章を丁寧に刺繍する繊細さと、道端で拾い集めた“名もなきもの”に言葉を付けて、個性や人格を与えてあげる優しさを持った人である。と言い切れないのが、牛島光太郎さんだと思います。
作家のどんな部分（たぶん変質的な部分）が、世界のどのような部分と交差することで、このような作品が生まれるのか。そう思いながら鑑賞していると、その交差する小さな点の上に自分も立っていることに気がつきました。
そのことが、今回彼の作品を購入した理由のひとつです。
“ポリティカル”“ソーシャル”といったメッセージを強く帯びているわけではないけれど、彼の作品は、“作家からの「問い」に対して考察を深め、想像を広げる”ということを純粋に楽しませてくれる作品であり、そんな作品とこれから生きていけるのかと思うと楽しみでなりません。

岩垂なつき［だれイワ賞］

安原千夏（メインギャラリー）

映画が終わって流れていく文字の羅列。それは本来映画のキャストやスタッフ、関係した誰かあるいは特定の何かを示しているはずなのに、余韻に浸りながらしばらく眺めているとそれは意味を失い、単なるオブジェクトと化していく。
今回購入した安原千夏さんの作品はこのような現象をテーマにしたもので、エンドロールの中で並んだ文字が、次第にグリッドに見えてくるという視覚的なイリュージョンを扱っているのだという。私たちの「みる」という行為がいかに不確かであるか、幾分かのユーモアとともに明らかにするこの試みは知的で、しかし普遍的に通ずるメッセージがあるように感じた。
また同時に「映画」というテーマを背景に持っている以上、どこかポエティックな含みもあり、それが一層作品を魅力的にしているようにも思う。
作家の今後の活動を心から楽しみにしている。

大石哲之［Bigstone Collection 賞］

遠藤麻衣（メインギャラリー）

遠藤麻衣さんは、ドガの浴室シリーズの絵画をもとに、描かれているモデルを現代風に演じた映像。ドガの発言を SNS のつぶやきのような軽薄な言葉に翻訳していたり、現在の視点でドガを再解釈しています。真剣にテーマや時代と対面している姿勢がよいです。映像クオリティも良く、今後大きな場所で勝負できる作品を作っていける力を感じました。

柳井信乃（メインギャラリー）

柳井さんは歴史や史実、人物や土地などの社会的リサーチを元に、それらのストーリーをミックスさせて、新しい物語をつくる映像作家です。「思想家ベンヤミンがナチスから逃れるためにピレネー山脈を超える」という史実を下敷きにした作品は、重いテーマであり、よもすると ステレオタイプな反戦になってしまうが、柳井さんの作品は、ドキュメントのようでもありフィクションのようでもあり、多層的で、鑑賞者の中にあるいろいろな感情や思いを生起させます。非常に、印象的な作品でした。とても実力ある作家と思います。ますますのご活躍を期待します。

山本聖子（3331 CUBE shop&gallery）

マンションの間取り図を組み合わせてたものがまるで幾何学的な模様のようになっており、レディ・メイドの趣を残しつつ、伸びやかで自由なペインティングをその上から載せていました。何処に飾ってもよい、素敵な作品ということで 1 票。

大西正紀［喫茶ランドリー賞］

近藤正勝（メインギャラリー）

枝にたたずむ一羽の鳥、この１枚の絵で、地域のあまねく人々が集う「喫茶ランドリー」という場所がさらにどうイキイキしていくか楽しみです！

太下義之［太下賞］

竹中克佳（体育館／やまなみ工房）

ひたすらに塔と城ばかり描いている。その細かな描線ゆえに、彼の作品は平面でありながら、まるでモアレが生じているかのような立体感を獲得している。そして硬質なタッチからは、一見クールであると同時に、譲歩の余地のない力強さをも感じる。画面に描かれているのはあくまでもシンプルな塔や城である。しかし、彼の作品にそこまで見入ってしまったら、もう katsu の城から引き返すことはできない。誰もみな、katsu の城の囚われ人になってしまうのである。

小野道生［小野 道生賞］

西大志（メインギャラリー）

ジュートを思わせる風合いのキャンバス、厚みを持って重ねられた絵具、翳りのある色彩。西太志さんの作品が放つ雰囲気はとても好みでした。そして、そんな西さんの作品の暗がりをじっと見ているうちに、芯の強い明るさとか小さな勇気のようなものがじんわり浮かび上がってくるように感じました。惹き込まれました。抑えた灯りのもと、浮かび上がってくる帽子男と言葉を交わしてみたい。なんなら酒を酌み交わしてみたりもしたい。そんな時間が過ごせるかも…と少しわくわくしています。

皆藤将［皆藤将賞］

ドッグヘルスクラブ（体育館／アキバタマビ21）

株式会社丹青ディスプレイ［丹青ディスプレイ賞］

堀貴春（メインギャラリー）

白磁のクモが白壁に張りついている姿にまず目を奪われました。
その質感は、まさに潔いという感じでした。
よく見るとリアルな形状も、メカっぽくデフォルメされることで
懐かしいアニメ（タイムボカン等）を思わせる温かみが伝わってきました。
今後さらにご活躍されることを期待しております。
（株）丹青ディスプレイ　クリエイティブ室　前田宏士

株式会社道明［有職組紐道明賞］

福田真知（メインギャラリー）

実在する対象物を撮影した数百枚の写真を透明度を高めて重ねることで、飛び飛びの時間の集合を同時に知覚させるこの作品は、原子核周辺の電子の存在確率を密度分布で表した電子雲のように、対象物が逆にぼやけてその存在が明確に確定できなくなることが示されており、情緒的な雰囲気を持ちながらも、非常に科学的な意味が付与されているという印象を受けました。

亀井博司［タートル賞］

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

コンセプトが明確で作家性が強く出ているところに惹かれました。

川村喜久［川村文化芸術振興財団賞］

長谷川寛示（体育館／アキバタマビ21）

山本智子（体育館／コウイチ・ファインアーツ）

福本健一郎（体育館サテライト／Blum & Poe）

小金沢智［小金沢智賞］

後藤有美（体育館／東北芸術工科大学）

美術と工芸、二次元と三次元を行き来する発想の鮮やかさと批評性、その実践としての作品に惹かれました。今後の作品も楽しみにしています。

櫻内昌雄［アートで生きる賞］

福田真知（メインギャラリー）

「時間の湖」というある種の TRANS 感覚のある言葉に惹かれました。今後も創作活動がんばってください。

笹川直子［SASANAO 賞］

蛭子未央（メインギャラリー）

施井泰平［泰平賞］

遠藤麻衣（メインギャラリー）

ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインの言葉に「思想の価値は勇気の量で決まる」というものがある。モダン以降の社会において、本当に価値ある表現とかなんなのか。少なくとも、それは行うのに、そして発信するのに「勇気」を必要としないようなものではないはずだ。この観点で美術作品を観ていると、いかに美術らしい美術、表現らしい表現の多いことかと考えさせられる。モチーフを選ぶ時、思想を形にする時、タイトルを付ける時、値段を付ける時、それを展示する時、作品の解説をする時、その全てに作者の「勇気」が宿る余白がある。現代社会はあらゆる次元で価値の再定義が行われている時代だ。100 年後に残る作品はどんな作品だろう。時を超える力のある作品とは、きっと「それらしい作品」ではなく、勇気の余白を上手く演出することに成功している作品なんだろうな。そんなことを考えながら展示会場を見てまわりプライズをセレクトした。

柴山哲治［AG ホールディングズ賞］

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

Cross-Culture と Cross-History 時空を超えたコンセプトに感銘を受け買いました。

嶋津充（ワンピース倶楽部）［嶋津 充賞］

遠藤麻衣（メインギャラリー）

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

須川和也［粋な神田で賞］

後藤有美（体育館／東北芸術工科大学）

発想も色も形も楽しい作品で今後が楽しみです。頑張って下さい。

住吉慶太［住吉 慶太賞］

ナガタマコト（メインギャラリー）

傍嶋賢［SOBASUTA 賞］

島村祥太（体育館／gallery G）

この度は作品を買わせていただきました傍嶋です。とても良い作品に出会えてうれしかったです。これからも作品制作がんばってください。

武内竜一［武内 竜一賞］

大原舞（メインギャラリー）

太刀川英輔［太刀川 英輔賞］

菊地暁子（体育館／秋田公立美術大学）

自然は取るに足らないスケールの小さなものの中に本当の美しさを見せてくれる。
それを克明に写し取ろうとする菊池暁子の姿勢に共感した。

ツツミエミコ［ツツミ エミコ賞］

高橋功樹（教室／ Gallery OUT of PLACE TOKIO）

磨く。この動詞が作品になっていて 一本の象徴的な素材を磨いて漆喰を塗った作品はかなり好きなタッチでした 素材はキャンバスの木枠。磨き上げて元の形も無くなっているのに 木枠を組むときの穴の跡がわずかに残っているのもポイントです。

関優香（体育館／美学校）

版画の線は饒舌。弱さが気になりました。弱いのに強いと感じるのはなぜか？ 細い線が探るように震えている。でもためらっているわけではない。大好きなミュージシャンのサインを粘土で立体にしてから デッサンするという実に巧妙な作品だとあとから知り強さの訳がわかりました。

寺内俊博［Shibuya Style Prize］

鈴木のぞみ（メインギャラリー）

遠山正道［遠山 正道賞］

楊珪宋（メインギャラリー）

リアルな草は、トニーマテリや須田義弘などブロンズや木彫など超絶的なものも見てきた中でいえば、セラミックはむしろプリミティブでもあり、そのてらいのないテカりも、なにか欺いてやろうというギミック感も薄い。
普通に家の窓際の棚にでも置いて、ある時小さな甥っ子などがそれをチラ見して密かに何かを発見したような一人だけのトキメキでも誘発できたら、そんな例えば 8 年後の午後、のための装置を所有した。
2027年の午後に、きっとそれは実現している。

笹岡由梨子（メインギャラリー）

とある京都での展示後に京都府の方々と共に打ち上げでご本人と飲み、二人でかなり深く絡んだ。
内容はもはや覚えていないが、翌日のメールに、悔し涙だ必ずビッグになるだのが書かれていた。
作家との関係でいえば、そんな時間を共有できたのはまさにコレクター冥利に尽きる。
そしてそのような欲やガッツを剥き出しにして結果にコミットするなら、もはや作家として勝ったも同然であり、コレクターとしては早目に取得するしかしようがない。
きっと本人は予定より早くビッグ成就するだろう。

宮北裕美（メインギャラリー）

作家のダンスはまだまだ観ていない。
日本のコンテンポラリーダンスは、カンパニーを持続させること自身が至難となっている。
ダンスによる公演の尺なども、今後柔軟に考えを変革していく必要があるのではと思う。
そんな折り、ダンスというものをベースにしながら切り出した別の表現の試みは意義があると感じる。
また、鑑賞者がアートをアート脳としてだけでなく広く日常や他の領域と交錯させたまま接する機会が増えていると感ずる昨今、ファッション的視線やスマホ的視覚を取り込めていると感ずる。

特定非営利活動法人 Art & Society 研究センター
［Art & Society 研究センター賞］

村上慧（メインギャラリー）

家を背負って各地を移動し他者の敷地を借りて寝泊まりを繰り返すという行為を通じて立ち現れる複雑な社会システムをテーマとして、他者との間にある境界や繋がり、私的 / 公的の微妙な重なり具合を常に意識して制作している。
今回のアートフェアでは、自分のスタジオにある樹木に住所のプレートを彫る行為と、そこから派生した家と樹木のドローイングを展示、「アートフェア」というシステムを特に意識した「作品」としている。またその作品は総体として、ありふれた木に番地を彫り込むという私的な行為が公的なプレートというしばりや社会システムに組み込まれてゆくという現象を視覚化しているようでもある。アート＆ソサイエティ研究センターではアートと社会との関係性に注目して研究と実践をおこなっており、その意味で村上慧氏の作品は複層的な視点を提供してくれる。引き続きその活動の展開に期待したい。

徳光健治［タグボートプライズ］

安原千夏（メインギャラリー）

プロのアーティストとして頑張ってもらいたいと思います。

中尾豪［美術 Academy&School 賞］

山本智子（体育館／コウイチ・ファインアーツ）

購入＝部屋に飾れるもの、ということを主眼に置き作品を観て歩きました。
作品にはブレーメンでは見慣れた景色なのであろうか、釣り下げ式の街灯が電線から等間隔にぶら下がり、異国情緒を誘いつつも、ほぼそれ以外の情報が排除されている。
部屋に飾ると新しい窓が増えたような気がする。
でも、その窓はいつもの見慣れた眺めの延長線上ではなく、いつか訪れた何処か異国の街の風景へと誘い込まれ、時と物理的な距離を超えてまた旅を始める。
もしかすると、新しい旅へと繋がる入口なのかもしれない。
鑑賞する側とのシンクロニシティ、同じ窓を覗き込んでも見ている景色は十人十色だろう。
作品を一見しただけでは見逃してしまいそうなギミックも愛らしい。

長瀬千雅［長瀬 千雅賞］

楊珪宋（メインギャラリー）

横浜・黄金町の歴史を少しでも知っていれば、引っこ抜かれていたタンポポをアーティストである作者がどんな気持ちで眺めていたのだろうと思うと思います。
絵じゃなくて陶なのがいいなと思いました。なぜなら生っぽさが減るからです。いや、表面がつやっとしているところがなまめかしくもあるんですが、なまめかしいけど生々しくないというのは成立するような気がします。
そういうことじゃなくて、オブジェと絵の中間みたいな感じが好ましいと思ったということが言いたかったのでした。

李晶玉（メインギャラリー）

この作品を見たとき、ものすごくきれいだと思いました。衣服のプリーツやドレープが美しくて、女性の背後にのびる地球の表面みたいな面が透けてるところもよくて、ずっと見ていたいなと思いました。
これで完成なのか、もっと描き込まれて色がのっていくのか、それはよくわからなかったのですが、そんなことどっちでもいい、この作家ならよい塩梅のところで筆を止めてくれるはずだと思いました。
いろいろあるけど、グレたり群れたりせずに、自分は自分でいようと思いました。

中村政人［中村政人賞］

大久保あり（メインギャラリー）

近藤正勝（メインギャラリー）

藤浩志（メインギャラリー）

堀浩哉（メインギャラリー）

鎌江一美（体育館／やまなみ工房）

菊地暁子（体育館／秋田公立美術大学）

長屋博［長屋 博賞］

富田正宣（メインギャラリー）

西山沙樹［3331 西山沙樹賞］

宮北裕美（メインギャラリー）

宮北さんの洗練された手首と手先のしなやかな動き。歳を重ねていくごとに身体がだんだんと固まってゆき、自由がきかなくなっていくことをここ数年で感じてきたこともあり、その動きに自由と解放感を感じさせられました。そして、２枚の写真にとらえられたその洗練されたしなやかさ、力強さ、そして風の流れ、時間の流れがとても美しく自由で、ずっと見ていたいと思いプライズとさせていただきました。宮北さんのパフォーマンスを拝見させていただく日を楽しみにしております。また、これからのご活躍を応援しております。

西山学［西山 学賞］

村山悟郎（体育館／東京藝術大学 中村研究室）

村山さんはオートポイエーシスやセル・オートマトンなどを応用して制作する理論派の作家。設定したルールに従って絵画を描いている（織物絵画もある）。しかしそこから出てくる表現は有機的な形状であり、その知覚的情動性をなぜルールが作るのかを追求しているように見える。
繰り返しとそのズレが織り成す表現から琳派を感じるのは何故だろう。

パトロンプロジェクト 菊池麻衣子
［パトロンプロジェクト 菊池 麻衣子賞］

堀貴春（メインギャラリー）

抜けるように白くエレガントな蜘蛛が一周目から心に刻まれました。
高校生の時から陶芸家になると決めて窯業を専門的に勉強した堀さん。影と造形の美しさを際立たせるために、ハイレベルな白磁を選択。堀さん曰く『継ぎはぎで作るのは誰でもできるけど、全てひと繋がりの白磁で蜘蛛を作るのはなかなかできることではなく、よく驚かれる』とのこと。この精密な立体感は、宮川香山の超絶技巧も思わせつつ、抜ける白ホワイトがコンテンポラリー。家を守ってくれるよい虫としての蜘蛛も嬉しいです！インスタに作品をアップすると海外からアートフェア出品のオファーもあって実現しているとのこと。実は、実用的な器でも透けるように薄く美しい作品で活躍している堀さんが、コンテンポラリーアートの分野でも活躍なさることを楽しみにプライズとさせていただきました。

林暁甫［林暁甫賞］

西永怜央菜（メインギャラリー）

清山飯坂温泉芸術祭でも作品を拝見させて頂いていて、状況と場所を可視化させるユニークな作品に興味を持っていました。今回の作品を拝見して、改めて作品づくりに向き合う日々の話を聞いてみたく選ばせていただきました。ドーナツでも食べながら。

アーツカウンシル東京 ROOM302（教室）

10年という活動の積み重ねをまとめてくれる貴重な機会だった。「東京」という多様性を内包し続け変わり続ける場所に、アートという視座で向き合い、生み出す価値が続いていく事を願っています。

林直樹［ガラパゴス N 賞］

大久保あり（メインギャラリー）

平面や立体ではないものの内でいろいろな要素のつまったもの、想像を超えているものがありそうな。

彦根延代［実現したかったで賞］

持田敦子（メインギャラリー）

持田敦子「それはいかにして起こらなかったか」
今回私は 3331 側のいちスタッフとして、3331 ART FAIR 2019 への作品出品に向けて、持田さんがご提出下さった複数プランの検討と実現の可能性について、時に当事者となりながらも逐次状況を見守る立場にありました。少しネタバレになってしまいますが、持田さんがイメージしていた本来の作品プランは、3331 の場所性や歴史を踏まえて考え抜かれたとても大がかりな作品でした。高さ数 m にも及ぶそのスケール感もさることながら、実現したら相当な見応えど体験のしがいがある、可動式の作品になる予定でした。残念ながら今回のフェアでは実現に至らなかったのですが、持田さんはこの「実現しなかった作品プラン」について、その経緯や各種調整のやりとり、人との関わり（私自身も含む）、持田さんが費やした時間までをも取り込んだ、《それはいかにして起こらなかったか》という作品に見事に昇華して下さいました。この度、できあがった作品を拝見し、迷わず購入させて頂くことに決めました。（私以外にこの作品をわかる人はいない！という不遜な思いもありましたが…）

風澤俊一［風澤 俊一賞］

三原回（美学校／体育館）

Cool!

藤村滋弘［藤村 滋弘賞］

築山有城（メインギャラリー）

“disk garage”というタイトルが付いた築山有城さんの黒い円形作品。大きさが違う20作品が螺旋状に展示されている様子は、まるで無限に続く宇宙に誘われているようです。そして、ひとつひとつの作品にもその世界観が表現されています。実は、作品の素材は、シナベニヤ板、ツヤ消し黒塗料、木工用ボンドというホームセンター等で日常に手に入るもの。それでもって壮大な表現できるのはアートならではの素晴らしさです。見る者のイマジネーションを刺激してくれると同時に和やかにもしてくれます。「轆轤を回している時、楽しくて、楽しくて、・・・」と話していた築山さんが印象的でした。“楽しい”は創造の源泉ですね。

藤谷けい［3331 藤谷けい賞］

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

いつの時代だろうか。女性2人が満開の花の庭先で微笑んでいるセピア色のポートレイト。この２人の顔には１つのビニールが縫い付けてあり、呼吸を共有していることが窺えます。
落合さんからルーマニアでのこの見知らぬ古い写真との出会いの話を聞き、そこからこの仲良く写っている女性たちのストーリーへの妄想が止まらなくなりました。そして普遍性と女性性を持ったこの作品を本能的に欲しいと思ってしまいました。
この一連の作品シリーズ「明滅する輪郭」の呼吸の可視化の表現を見ていると、ほんの 0.0000…1% かもしれないけれど、自分の成分が他者に入り込み、良い影響を与えていたり、誰かの記憶の一部に刻みこまれているという確信、またそこから対､人としての世の中について少しだけ優しく思える気がしてきます。
ルーマニアと日本、2 つのルーツを持つ彼女だからこそ、「異なる価値観」の気づきだけでなく、逆に国や時代を超えた「共通の意識や記憶」についてもセンシティブに受け止めることができるのではないでしょうか。
多幸感をそのまま真空パックしたようなこの作品が手に入り、私も幸せです。今後の活動も期待しております。

堀内勉［ソーシャルイノベーション賞］

ナガタマコト（メインギャラリー）

最近、アートフェアの同質化が言われていると思います。アートが街おこしになることから自治体も積極的に後押ししていますが、結局、そこで展示される「コンテンツは何なの？」ということが問われている訳です。
特に、まだマーケットができていない若い作家については、その美術商品としての価格よりも、「あれっ？コレなんだろう？」と目をひく、足を止める作品であるかどうかがポイントだと思っています。そういう意味で､ナカダマコトさんの新しい木彫作品は、今回、これは一体何なのだろうか？と最も私の目をひいた作品でした。そして、木を愛する私としては、どうしても見過ごせませんでした。それにしても、この作品、一体どうやって彫ったんだろうか？

前川俊作［前川 俊作賞］

楊珪宋（メインギャラリー）

陶器の作品を頂くのは初めてです。器を連想させないところとヌメッとした感触が新鮮でした。道ばたの野草のぶっきらぼうさと生命感にも惹かれました。一見インテリアグッズ風（失礼）ですがしっかりアートに踏みとどまっている点も良かったです。

松下憲史［トリマツ賞］

ナガタマコト（メインギャラリー）

丸山晶崇［ミュージアムショップ・ティ賞］

中村太一（メインギャラリー）

以前の個展の DM を手に取り、展示に行けなかったのですが、気になっておりました。今回展示されている作品群の前を通ったときに同じ作家とは気づかなかったですが、とても気になってたちどまりました。実物が拝見でき、また購入できてよかったです。今後の活動も楽しみにしております。

三沢恵子［アートエバンジェリスト協会賞］

宮北裕美（メインギャラリー）

ひとめぼれでした。自身の映像作品から切り出された、“静止している”はずのその作品は、時間が流れ、浮遊し、まるでそこから踊り出てくるようでした。
アーティストのパフォーマンスから紡ぎ出された、軽やかな表現からは、身体の美しさは、美しい生き方にも通じることを感じます。丁寧な生き方を示唆し、記録と未来が同居する作品です。

都橋はる美［都橋 はる美賞］

村上慧（メインギャラリー）

せおわれて歩く家。たくさんの足で今にも歩き出しそうな家。家は自由を手にした。今度はどんなところに住んでみようか。

森下泰輔［アートラボで賞］

斉と公平太（メインギャラリー）

斉と公平太さんの冊子の作品は「現代」と「アート」が接続された「現代アート」という言葉に違和感を持つところから始められていることに共感を持ちました。現代アートという語がいつごろから使われたのかに関し大正時代まで調べますが、現代の意味で使用され始めたのは 70 年代ころからではないかとの結論に至っています。ほかにも将棋のように見えるチェス盤の提示など、普段あまり気が付かないことに思考をめぐらせていることに好感を持ちました。

安田逸美［これなに賞］

大久保あり（メインギャラリー）

柳正彦［Store Front 賞］

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

蚤の市や古本屋での古写真の探索、複写、拡大とプリント、さらに紙面の加工。創作のベースとなる「古写真」を用意するまでの、目には見えないプロセスについての説明を聞くまでは、今回展示されたシリーズは、表面的にはシンプルに見えていました。
しかし、文化、風習、時間を超えた、人間の根源を見せ、考えさせてくれる作品となっているのは、スカリプカリウ落合安奈さんが二つの文化のバックグラウンドをお持ちゆえにと想像しています。
欧州（多分、主として東欧）と極東、芸術文化のみならず、衣食住、全てのレベルで異なっている人々の写真の上に、ビニール小片のコラージュを施すだけで、全ての人々に共通する「呼吸」そして「生きること」を見せ、感じさせる作品を作り上げる・・・素晴らしい手法ですね。
同時に、写真の中の、今はこの世には存在しなくなった人々が生きた時代であってもと、私自身がいるこの現在であっても、人間にとって、最も根源的な「活動」が、呼吸であることを思い起こさせられました。
シンプルと書いてしまいましたが、フレームの選択、余白の大きさ、そして、ステッチなど、細部にわたった拘りと丁寧さが、作品をより魅力的にしています。

山口栄一［E.Yamaguchi 賞］

楊珪宋（メインギャラリー）

「やきもの」という制約が多い表現の中に、ユーモアと植物への愛情のようなものを感じました。畳におきたいです。

山本敦子［山本 敦子賞］

天牛美矢子（メインギャラリー）

独特の世界感と作品の完成度の高さに惹かれました。
購入した作品は、森の奥に住んでいる妖精のようにも見えますが、もっと恐ろしい、人間の力では制御できない存在のようにも見えます。
自分の心の中にもこんな子どもが住んでいるのかもしれない、と思い、手元に置いておきたくなりました。これからも魅力的な作品を制作してください。応援しています。

山本謙一［アウラ賞］

森田郷士（体育館／やまなみ工房）

昨年、森田さんのこのシリーズの作品がフェアにあり、ドネーションさせていただいた。
今回、またこのシリーズがフェアに登場し、改めて作品の表現強度に惹かれた。
作品タイトルは「点と線」と抽象的だが この作品のサブタイトルを敢えてつけるとするなら【それでも尚、私は可能性に生きてる!】だろうか。
生きていく中で色々な事にまみれながらも、レインボーカラーなマインドを忘れず、大きく包み込むような表姿とも、明日に賭けるような後ろ姿ともつかない、詩的デフォルメ身体からほとばしる一人の人物の、太々（ふてぶて）しいまでの力強いドローイング表現は、彼しかできない独自の優れたアウラ表現作品として結実していた。

リンダ・デニス［デニス アワード］

スクリプカリウ落合安奈（メインギャラリー）

亀山晴美（体育館／東北芸術工科大学）

匿名［01 賞］

山田ひかる（体育館／武蔵野美術大学）

一度見たら忘れる事の出来ない独自な木版のタッチに惹かれた。物語や身近のニュースを再構成して、ユニークな光景をつくり込んでいる。

パートナー様特別プライズ

NOHGA HOTEL［NOHGA 賞］

富田正宣（メインギャラリー）

※2019 年 8 月 1 日〜10 月末まで NOHGA HOTEL 上野にて作品展示予定。

オーディエンス・プライズ結果発表

■オーディエンス・プライズ

3331 ART FAIR 2019 に来場いただいたお客様からの「オーディエンス投票」を実施。
投票上位 3 名の結果を発表致します。（順不同）

ナカダ マコト Makoto Nakada

島本 了多 Ryota Shimamoto

大久保 あり Ari Okubo

■3331 ART FAIR レコメンドアーティスト

各プライズの結果を踏まえ、アーツ千代田 3331 による厳正なる検討の結果、4 組が 3331 ART FAIR レコメンドアーティストに選出されました。選ばれた方々には 3331 GALLERY での個展開催の機会が授与されます。会期等の詳細が決まり次第、アーツ千代田 3331 のウェブサイト等でご案内して参ります。（順不同）

牛島 光太郎 Koutarou Ushijima

牛島光太郎は、ことばに注目する。ことばが語る物語や、ことばになる以前の物語を紡ぐ作り手である。日常の中で拾い集めたものや思い入れのあるものを用いたり、自らの手で刺繍したことばなどを組み合わせて物語を語る。その物語は、とくに起承転結があるわけでもなく、ただ私たちの前に投げ出されるように置かれている。そこには圧倒的な感動もなく、人生に役立つ教訓もないが、おろかで、はかない人生を生きるひとびとへのたしかな共感はある。（推薦者による作家紹介文より）

大久保 あり Ari Ookubo

オブジェや写真、あるいは自然物のレプリカや骨董品なども組み合わせ、時空を行き来するようなインスタレーションを制作。その創造の最中で大久保が体験した過程などが要素となり、ひとつの「おはなし」が編まれてゆく。物語を読み進めることで主人公達の探索の記憶にたどりつけるのだが、「おはなし」を大久保自身が朗読するパフォーマンスを行うとき、作家・作品・物語は更に複層化して、現実と非現実の境目もよりあいまいになってゆく。作品と作家を往来する関係性の前では、鑑賞者でさえも、空間に影響を及ぼす存在となり得るのだろう。（推薦者による作家紹介文より）

宮北 裕美 Hiromi Miyakita

7 年前に京丹後市に移住してから、暮らしの中で身近にあるものはすべてダンスをしていて、美しい線やパターンを生み出していることが見えてきたので、振付家がダンサーに振付けるのと同じ感じで、身近な物に踊ってもらうようになりました。映像作品「Drift」は昨年の香港の発表を経て、今年はスウェーデンで発表する舞台作品で私自身との共演になりそう。「Drift Trace」シリーズは、ダンスを静物としてとどめてみました。（作家の言葉より）

持田 敦子 Atsuko Mochida

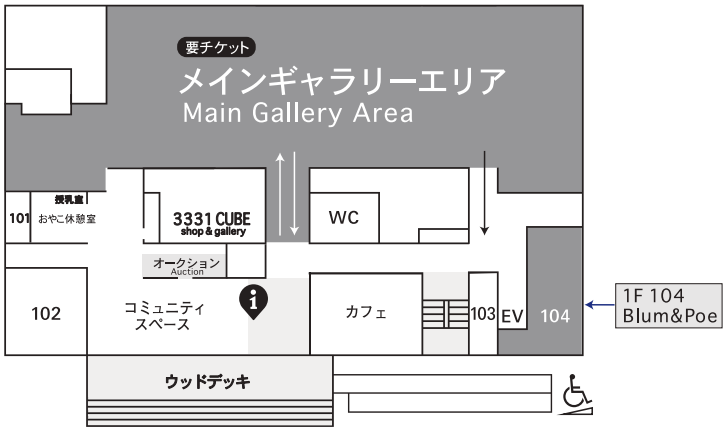
公共空間や生活空間などに介入する建築的な規模のインスタレーション作品を制作。既視感さえある日常の空間にひずみを生みだし、その空間の意味合いを一時的にかえる、もしくは本来の意味合いを可視化することで、みるものの常識や感覚に働きかけ、変化させる作品を多く手がける。過去には家、個人の部屋、公園、レストラン、学校の教室、廃ホテル、旧刑務所など様々な環境にサイトスペシフィック作品を制作。（作家の言葉より）

4. 館内見取り図

館内見取り図

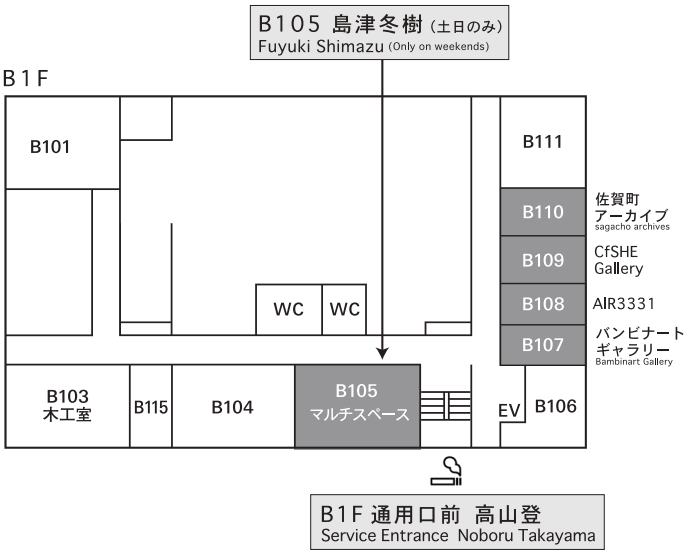
地下1階から屋上まで、3331全体で繰り広げる「3331 ART FAIR 2019」。
フロアごとに“観る・買う・参加する・知る”楽しみが散りばめられています。

1F

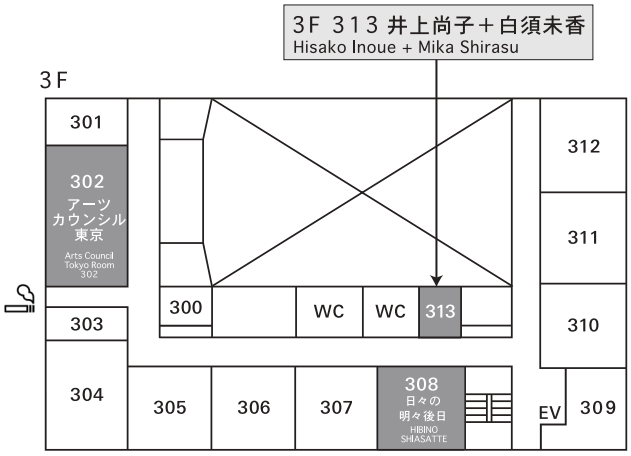


2F

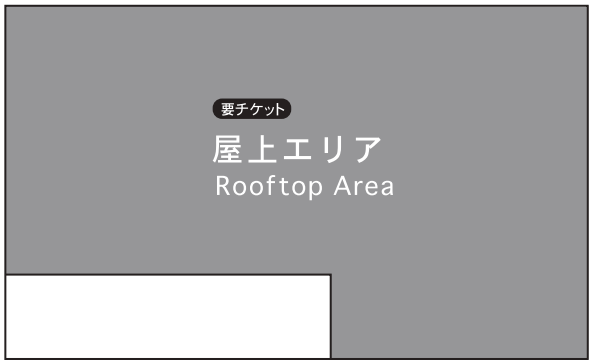
B1F



3F



RF



tokyobike

サテライトエリア
Satellite Area

NOHGA HOTEL UENO
東京都台東区東上野2-21-10
2-21-10 Higashiueno Taito, Tokyo

5. 1F メインギャラリー

出品作家

1F メインギャラリーは、全国各地で活躍するキュレーターや美術関係者が推薦する気鋭のアーティストの作品が並ぶ、展覧会形式のアートフェア会場です。コマーシャルギャラリーで活躍する作家から、ギャラリーに所属していない作家、オルタナティブな場所を構えて活動する作家まで、様々なスタイルで制作・発表を続ける気鋭のアーティストの作品を紹介。またこの度の開催では、アートの文脈を語る上で欠かせない日本の 60 年代以降のアートシーンを牽引してきた作家の特別企画展示「遊殺・以後」も開催しました。

■メインギャラリーエリア：出展作家 72 組

特別企画展「遊殺・以後」

日比野 克彦
Katsuhiko Hibino

藤 浩志
Hiroshi Fuji

椿 昇
Noboru Tsubaki

堀 浩哉
Kosai Hori

高山 登
Noboru Takayama

秋山 佑太
Yuta Akiyama

井上 尚子＋白須 未香
Hisako Inoue + Mika Shirasu

岩村 遠
En Iwamura

牛島 光太郎
Koutarou Ushijima

繪畑 彩子
Ayako Ebata

蛭子 未央
Mio Ebisu

遠藤 麻衣
Mai Endo

大久保 あり
Ari Ookubo

大原 舞
Mai Ohara

岡田 鉄平
Teppei Okada

片山 真理
Mari Katayama

勝 正光
Masamitsu Katsu

川田 龍
Ryo Kawada

菊谷 達史
Satoshi Kikuya

金 仁淑
Insook Kim

金 サジ
Sajik Kim

木村 剛士
Takeshi Kimura

キュンチョメ
KYUN-CHOME

國政 サトシ
Satoshi Kunimasa

黒宮 菜菜
Nana Kuromiya

小坂 学
Manabu Kosaka

小林 紗世子
Sayoko Kobayashi

近藤 正勝
Masakatsu Kondo

斉と 公平太
Kouheita Saito

笹岡 由梨子
Yuriko Sasaoka

澤田 華
Hana Sawada

島本 了多
Ryohta Shimamoto

下出 和美
Kazumi Shimode

杉浦 藍
Ai Sugiura

杉山 卓朗
Takuro Sugiyama

スクリプカリウ落合 安奈
Ana Scripcariu-Ochiai

鈴木 淳
Atsushi Suzuki

鈴木 のぞみ
Nozomi Suzuki

高橋 功樹
Koju Takahashi

谷中 佑輔
Yuske Taninaka

玉田 多紀
Taki Tamada

築山 有城
Yuki Tsukiyama

寺江 圭一朗
Keiichiro Terae

天牛 美矢子
Miyako Tengyu

富田 正宣
Masanori Tomita

ナカダ マコト
Makoto Nakada

中村 太一
Taichi Nakamura

西 太志
Taishi Nishi

西永 怜央菜
Reona Nishinaga

福田 真知
Masakazu Fukuta

布施 琳太郎
Rintaro Fuse

堀 貴春
Takaharu Hori

松田 啓佑
Keisuke Matsuda

宮北 裕美
Hiromi Miyakita

宮本 穂曇
Hozumi Miyamoto

迎 英里子
Eriko Mukai

村上 慧
Satoshi Murakami

村田 宗一郎
Soichiro Murata

村田 奈生子
Naoko Murata

持田 敦子
Atsuko Mochida

森 栄喜
Eiki Mori

安原 千夏
Chinatsu Yasuhara

柳井 信乃
Shino Yanai

山元 彩香
Ayaka Yamamoto

山本 聖子
Seiko Yamamoto

楊 珪宋
Keiso Yo

米倉 大五郎
Daigoro Yonekura

藍仲軒
Chunghsuan Lan

李 晶玉
JongOk Ri

安木
AINWOODS

Eunice Luk
Eunice Luk

Mara Cozzolino
Mara Cozzolino

Patrick Cruz
Patrick Cruz

後小路 雅弘
Ushiroshoji Masahiro

九州大学大学院人文科学研究院教授

1978 年福岡市美術館学芸員となり、「アジア美術展」を始め、「美術前線北上中―東南アジアのニューアート」(1992年)「東南アジア―近代美術の誕生」展(1997年)など、アジアの近現代美術の紹介に取り組んだ。1999年には学芸課長として福岡アジア美術館の設立に尽力し「第1回福岡アジア美術トリエンナーレ」を手掛けた。2002年より九州大学へ移り、アジアの近現代美術を研究するかたわら、モンゴル近代絵画展(2002年)、ベトナム近代絵画展(2005年)などのキュレーションに関わった。

遠藤 水城
Mizuki Endo

東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス (HAPS) 代表
ヴィンコム現代美術センター芸術監督

1975年札幌生まれ。東大阪市およびハノイ在住。キュレーター。2004年、九州大学比較社会文化研究学府博士後期課程満期退学。art space tetra (2004/福岡)、Future Prospects Art Space (2005/マニラ)、遊戯室 (2007/水戸)などのアートスペースの設立に携わる。2005 年、若手キュレーターに贈られる国際賞「Lorenzo Bonaldi Art Prize」を受賞。2007 年、Asian Cultural Council フェローとして米国に滞在。同年より 2010 年まで ARCUS Project のディレクターを務める。2011 年より「東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス」エグゼクティブディレクター。2017 年、ヴェトナムはハノイに新しく設立された Vincom Center for Contemporary Art の芸術監督に就任。国際美術評論家連盟会員。京都造形芸術大学客員教授。これまで国内外で多数の展覧会を手がけている。

笠原 美智子
Michiko Kasahara

石橋財団ブリヂストン美術館副館長

1957年長野県生まれ。1983年明治学院大学社会学部社会学科卒業。1987年シカゴ・コロンビア大学修士課程修了(写真専攻)。主な著作に『ジェンダー写真論 1991 - 2017』(里山社、2017)、『写真、時代に抗するもの』(青弓社、2002)、『ヌードのポリティクス　女性写真家の仕事』(1998、筑摩書房)、他。主な展覧会として、「わたしという未知へ向かって　現代女性セルフ・ポートレイト」展 (1991) 、「ジェンダー　記憶の淵から」展(1996)、「ラヴズ・ボディ　ヌード写真の近現代」展(1998)、「ラヴズ・ボディ　生と性を巡る表現」展 (2010)、「日本の新進作家 vol. 11 この世界とわたしのどこか」展(2012)、「ダヤニータ・シン インドの大きな家の美術館」展(2017)、「愛について アジアン・コンテンポラリー」展(2018)他。第51回ヴェネチア・ビエンナーレ美術展日本館コミッショナーとして「石内都：マザーズ 2000 - 2005 未来の刻印」展(2015年)を開催。石橋財団ブリヂストン美術館副館長 (2018 -) 東京都写真美術館事業企画課長 (2006 - 2018) 東京都現代美術館学芸員(2002 - 2006) 東京都写真美術館学芸員 (1989 - 2006)

黒澤 浩美
Hiromi Kurosawa

金沢21世紀美術館チーフ・キュレーター

ボストン大学(マサチューセッツ州、アメリカ合衆国)卒業後、水戸芸術館(茨城)、草月美術館(東京)を経て 2003年金沢21世紀美術館建設準備室に参加。建築、コミッションワークの企画設置に関わる。2004年の開館記念展以降、多数の展覧会を企画。「オラファー・エリアソン」「ス・ドホ」「フィオナ・タン」「ジャネット・カーディフ＆ジョージ・ビュレス・ミラー」など、国内外で活躍する現代美術作家と作品を紹介。ミュージアム・コレクションの選定や学校連携や幅広い年齢の来館者に向けた教育普及プログラムも企画実施。2011年 City Net Asia(ソウル、韓国)、2017年 OpenArt (エレブロ、スウェーデン)、2018 年東アジア文化都市(金沢)にて総合キュレーターを務める。

出原 均
Hitoshi Dehara

兵庫県立美術館学芸員

1958 年徳島県生まれ。1986年広島大学地域研究科修士課程修了。同年広島市現代美術館の準備室に入室、1989年の開館後、同館で学芸員。2007年兵庫県立美術館に移籍。企画した主な展覧会は、個展では、篠原有司男(1992年)、戸谷成雄(1995年)、菅木志雄(1997年)、柳幸典(2000年)、横尾忠則(2002年、2014年)、草間彌生(2005年)、榎忠(2011年)、舟越桂(2015年)など。それ以外では、「ヒロシマ以後」(1995年)、「表出する大地」(1997年)、「現代絵画のいま」(2012年)、「1945年 ±5 年」(2016年)などがある。

服部 浩之
Hiroyuki Hattori

キュレーター

1978年愛知県生まれ。2006 年早稲田大学大学院修了(建築学)。2009年 - 2016 年青森公立大学国際芸術センター青森 [ACAC] 学芸員。アジア圏を中心に、展覧会やプロジェクト、リサーチ活動を展開。近年の企画に、「あいちトリエンナーレ 2016」(愛知県美術館ほか | 2016年)、「ESCAPE from the SEA」(マレーシア国立美術館、APW ほか | 2017年)、「近くへの遠回り」(ウィフレド・ラム現代美術センター、ハバナ | 2018 年)など。第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター。

原 久子
Hisako Hara

アートプロデューサー
大阪電気通信大学教授

京都市生まれ。『Art & Critique（エーシー）』（発行・京都造形芸術大学、1987〜1997）の編集を担当。90年代よりアーティスト・イン・レジデンス、アートスペースの調査研究、アートプロジェクトの企画・運営、雑誌・新聞等への執筆、編集、コンサルティングなどに携わる。主な共同企画に「六本木クロッシング 2004」（森美術館、2004）、「Between Site and Space」（トーキョーワンダーサイト渋谷、2008＋ARTSPACE Sydney、2009）、「あいちトリエンナーレ 2010」（愛知県美術館ほか、2010）ほか。共編著に『変貌する美術館』（昭和堂）など。

原 万希子
Makiko Hara

インディペンデント・キュレーター

東京生まれ、バンクーバー在住。2007年にバンクーバーの国際現代アジアアートセンター Centre A のチーフキュレーター就任を機にカナダに移住、2013年に独立。90年代よりカナダとアジアを繋ぐアートプロジェクトを数多く手がける。最近の主なアートプロジェクトは、Scotia Bank Nuit Blanche（トロント、2009）、鳥取藝術祭、AIR 475 プロジェクト（米子市、2014 - 2016）、『仮想のコミュニティー・アジア』黄金町バザール 2014（横浜、2014）、105本の菊の花、シンディー望月個展（若山美術館、東京、2016）、Rock Paper Scissors/ 石紙鋏、シンディー望月個展（米子市立美術館、鳥取県、2018）など。2017年春より秋田公立美術大学国際交流センター、アドバイザーに就任。

福住 廉
Ren Fukuzumi

美術評論家

1975年生まれ。著書に『今日の限界芸術』（BankART 1929、2008）、共著に『日本美術全集第 19 巻拡張する戦後美術』（小学館、2015）、『どうぶつのことば』（羽鳥書店、2016）ほか多数。企画展に『 21世紀の限界芸術論』（ギャラリーマキ、2005〜2011）、『今日の限界芸術百選』（まつだい「農舞台」ギャラリー、2015）ほか多数。現在、東京藝術大学大学院、女子美術大学、多摩美術大学、横浜市立大学非常勤講師。「共同通信」で毎月展評を連載しているほか、ウェブサイト（https://note.mu/fukuzumiren）でもレビューを発表している。

毛利 嘉孝
Yoshitaka Mouri

社会学者
東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授

社会学者。専門はメディア／文化研究。 1963年生。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授。京都大学卒業、広告会社勤務後、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジで PhD を取得。 特に現代美術や音楽、メディアなど現代文化と都市空間の編成や社会運動をテーマに批評活動を行う。主著に『ストリートの思想』（日本放送出版協会）、『文化＝政治』（月曜社）、『増補　ポピュラー音楽と資本主義』（せりか書房）、編著に『アフターミュージッキング』（東京藝術大学出版会）。

推薦団体一覧

アキバタマビ21
バンビナートギャラリー
CfSHE Gallery
ex-chamber museum
Gallery KIDO Press
Gallery OUT of PLACE TOKIO

3331 Arts Chiyoda

3331 ART FAIR 2019
特別企画展

遊殺・以後

堀 浩哉 Kosai Hori
×
藤 浩志 Hiroshi Fuji
×
日比野克彦 Katsuhiko Hibino
×
椿 昇 Noboru Tsubaki
×
高山 登 Noboru Takayama

1F メインギャラリー会場内で、もの派からポストもの派、ニューウェーブ、つまり60年代末～80年代の時代を牽引してきた作家に焦点を当てた特別企画展を開催しました。当時制作された作品を中心に、作家のありありとした制作現場が垣間見られる貴重なラフスケッチや、本邦初公開の作品も展示・販売しました。（一部非売品）新進気鋭の若手作家の作品が並ぶフロアの只中に企画展会場を設けることで、日本の現代美術の文脈や流れを 3331 独自の視点で再検証すると同時に、「今なぜこのような表現が生まれているのか」「アーティストが作品を生み出すとはいったいどういうことか」という問いを来場者に投げかけました。

3331 ART FAIR 2019 ハンドブックのキービジュアルとなった“地下動物園”の展示を
中心に、柿渋を使ったキャンバス作品を展示・販売。
また、期間中館内のパブリックエリアに多数の作品展開も行った。

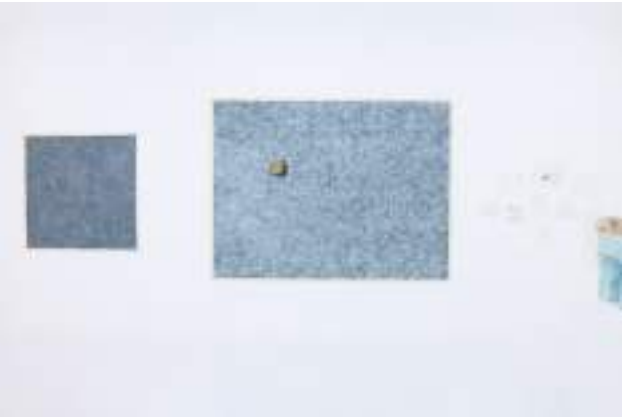
高山 登　Noboru Takayama

1944 年 東京都生まれ。1970 年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。1990～1991 年、文部科学省在外研究員として、P.S1 Museum,international Stujio Artist,N.Y.C にて制作を行う。東京藝術大学在学中の 1960 年代末より作家活動を始め、枕木や鉄、ワックスなどの素材を用いて、ある場所を密接な空間へとつくりかえるインスタレーションを手がけてきた。展示空間や環境を深く考察したうえで行われるその造形は、今日まで一貫してゆるぎがない。作品のテーマとして度々使用される「遊殺」とは、もともと陶芸の土作りの際に使われる「土殺し」という言葉から転用されており、互いに与え破壊する、自然と人間の関係性と重ね合わせているという。2005年から2011年まで東京藝術大学美術学部先端藝術表現科教授を務め、現在は仙台に居住し宮城大学の特任教授として教鞭をとりながら活動を行っている。

堀氏の代表作である“鑑賞を拒否する”を中心に、
ドローイングや美共闘時代のメモやノートが展示された。
また、本フェアへの堀氏の出展に合わせ、美共闘時代の当時のメモと、
現在の堀氏の肉筆が同一画面上に共存するオリジナルエディションを制作、販売した。
(“Revolution” 1969-2019, デジタルプリントに手彩色, ED15)

堀 浩哉　Kosai Hori

1947年富山県生まれ。多摩美術大学入学後の1967年より美術家としての活動を開始。60年代末には学生運動の一環として美術の制度性を問い直す「美術家共闘会議（美共闘）」という運動体を立ち上げ、その議長としても活動する。初期の作品は学生運動と重なりながら制作されたものであり、モダニズム絵画に至る歴史を遡りながら、その限界を突破することを目的としていた。そしてモダニズムの起源を見据えながら、さらにそこから日本で絵画が生成する過程を辿り、自らの絵画空間を構築してきた。一方で「今、ここ」での社会と美術の境界線上で生成する様々な問題や事象に共鳴しながら、インスタレーションやパフォーマンスとして精力的に展開し、1977年パリビエンナーレ、1984年ベニスビエンナーレなど数多くの国際展にも出品。2002年より多摩美術大学教授に就任。多摩美大が運営するオルタナティブスペース「アキバタマビ 21」を創設し、初代プロデューサーを務めた。



20代の頃の椿氏が、もの派の影響を受けて制作した1970年代のドローイング2点と、
当時椿氏が作品のプランを練った際に書き殴ったラフスケッチも展示された。
まさにミュージアムピース級の作品であり、
椿氏のアーティストとしての原点を目撃する貴重な機会となった。

椿 昇　Noboru Tsubaki

1953年京都市生まれ。京都市立芸術大学美術専攻科修了。
80年代の「関西ニューウェーブ」の作家の一人とされ、89年にサンフランシスコ近代美術館を皮切りに、アメリカ7都市およびICA名古屋に巡回した展覧会「アゲインスト・ネイチャー 80年代の日本美術」に出展。本展タイトルは当時のアメリカにおいて日本の現代美術の主流がもの派と見られ、日本人＝自然というイメージが強かったことに対するアンチテーゼとして椿が命名したものだった。93年には第45回ヴェネチア・ビエンナーレに参加。また2001年の横浜トリエンナーレで発表した全長50メートルに及ぶ巨大なバッタのバルーン《インセクト・ワールド-飛蝗（バッタ）》は大きな話題を呼ぶ。京都造形芸術大学で教鞭を執る傍ら、アーティストによるアートフェア「ARTISTS’FAIR KYOTO」を主催するなど社会や美術界のシステム自体に疑問を投げかけつつ、多彩な活動を行う。

3331 ART FAIR 2019は、日比野氏の初めての“アートフェア”参加であり、
稀少な作品販売の機会となった。本展では、ミュージアムピースの80年代に制作した
ダンボールの貴重なオブジェクトを中心に、近作も展示・販売された。

日比野 克彦　Katsuhiko Hibino

1958年岐阜市生まれ。1984年東京藝術大学大学院修了。東京藝術大学在学中の1982年にダンボールを使った平面作品で、第3回日本グラフィック展大賞、さらに翌年には第30回ADC賞最高賞を受賞し注目を浴びる。ダンボールの質感を生かしたエネルギッシュかつポップな作風で、アートとデザインの境界を打ち破るスター的な存在として若い作家たちに絶大な影響を与えた。国内外の多数の展覧会で発表を行い、1986年にはシドニー・ビエンナーレ、1995年にはヴェネチア・ビエンナーレへも出品。近年は地域や人を生かした様々なアートプロジェクトを展開。主なプロジェクトに「明後日新聞社文化事業部／明後日朝顔」（2003~現在）、「アジア代表」（2006年~現在）、「瀬戸内海底探査船美術館」（2010年~現在）、「種は船航海プロジェクト」（2012年~現在）等。2014年より異なる背景を持った人たちの交流をはかるアートプログラム「TURN」を監修。2017年より「アート×福祉」をテーマに東京藝術大学の履修証明プログラム「Diversity on the Arts Project」、2018年より社会包摂をテーマにしたプロジェクト「UENOYES（ウエノイエス）」のディレクターも務める。

80年代からの藤氏の活動を振り返る、ある意味事件とも言うべき展示となった。自身が染色を手がけ鴨川を実際に泳いだ鯉、同プロジェクトで制作された招き猫のほか、カメハニワのカメ等等…所狭しと並んだ展示作品の隙間に藤氏自身で解説を書き込み、インスタレーションとしても完成度の高い展示となった。

藤 浩志 Hiroshi Fuji

1960年鹿児島県生まれ。奄美大島出身の両親の影響で大島紬周辺で遊ぶ。京都市立芸術大学在学中演劇に没頭した後、地域をフィールドとした表現を模索。大学在学中に友人たちと企画した「アートネットワーク’83」で三条鴨川に染織作品を無断で設置し事件となる。フジヤマゲイシャ、第一回牛窓国際芸術祭などを経て若手作家のネットワークを築くなか、大学院の修了作品「ゴジラとハニワの結婚離婚問題」が美術雑誌で紹介され次世代の作家として注目される。同大学院修了後パプアニューギニア国立芸術学校に勤務し原初的表現と文化人類学に出会う。バブル崩壊期の再開発業者・都市計画事務所勤務を経て土地と都市を学ぶ。「地域資源・適性技術・協力関係」を活用した美術表現を志向し、全国各地でプロジェクトを試みる。取り壊された家の柱素材の「101匹のヤセ犬の散歩」。一ヶ月分の給料からの「お米のカエル物語」。家庭廃材を利用した「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「Polyplanet Company」「Jurassic Plastic」。架空のキーパーソンをつくる「藤島八十郎」等。NPO法人プラスアーツ副理事長。十和田市現代美術館館長を経て秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科・アーツ＆ルーツ専攻教授・副学長、NPO法人アーツセンターあきた理事長。

■特別企画展 関連イベント

1．特別対談「遊殺・以後 |
高山登×椿昇×日比野克彦×藤浩志」

特別企画展「遊殺・以後」に出品するアーティストを迎え、当時の制作態度や作品が生み出された時代感を振り返るとともに、今の時代へと脈々と繋がる現代美術の流れと今の表現を再検証する特別対談を行いました。

日時:3 月 6 日 (水)18:00-19:30
会場:2F 体育館イベントスペース
登壇者:高山登 椿昇 日比野克彦 藤浩志
※堀浩哉氏は、当日ご出張のためご欠席
モデレーター:中村政人

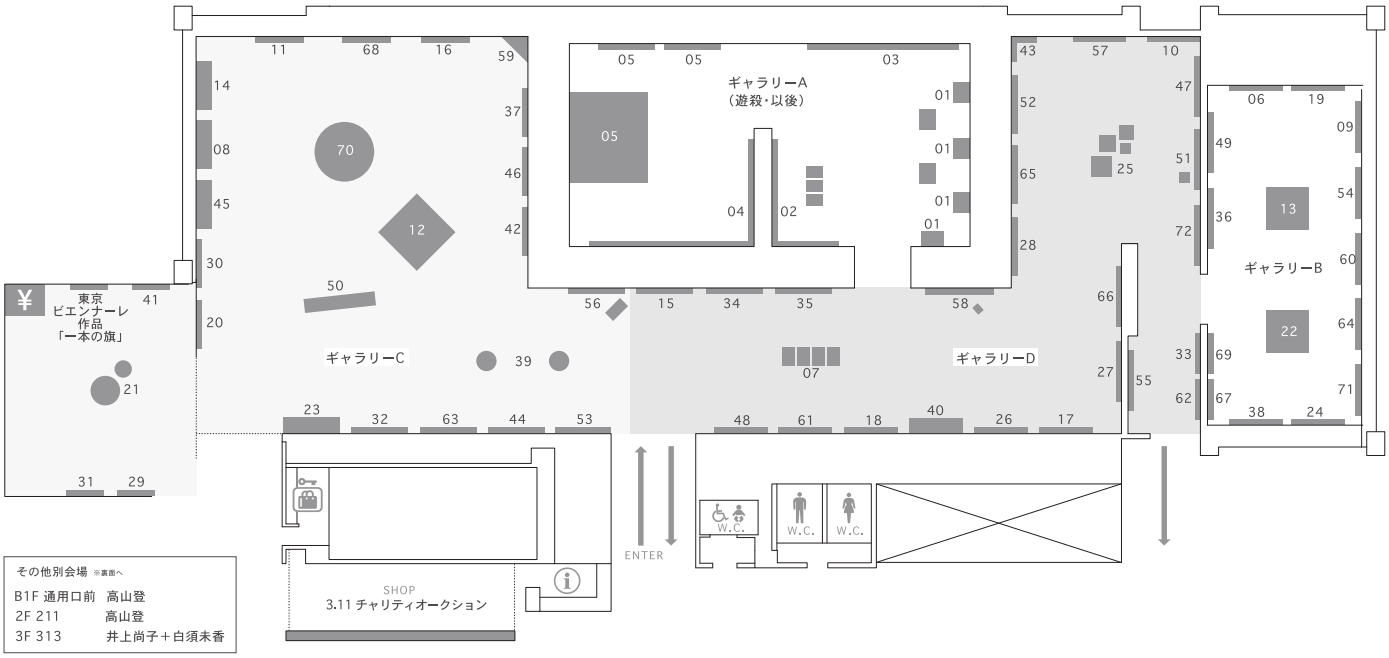
2．特別対談「堀浩哉×黒瀬陽平
『70年代以降の表現』と『3.11以降の表現』」

堀浩哉氏と、美術家・美術評論家であり、ゲンロン カオス * ラウンジ 新芸術校主任講師も務める黒瀬陽平氏をお招きした特別対談を開催しました。3331 ART FAIR 2019 最終日の翌日は、東日本大震災の発災日にあたり、堀氏は、3.11 以降、福島第一原発事故がもたらした近代文明の本質的な有限性に対して芸術がいかに向き合うことができるのかを問い続けています。本対談では、「遊殺・以後」に展示される作品や 4 年前の 3.11 に行った「記憶するために」のパフォーマンス映像を振り返るとともに、堀氏と黒瀬氏それぞれの眼差しで見た『70 年代以降の表現』と『3.11 以降の表現』についてお話いただきました。

日時:3 月 10 日 (日) 14:00-15:30
会場:2F 体育館イベントスペース
登壇者:堀浩哉 黒瀬陽平

会場レイアウト

メインギャラリー



出展作家

NO　展示ギャラリー名

01_A 日比野 克彦 | Katsuhiko Hibino
02_A 藤 浩志 | Hiroshi Fuji
03_A 椿 昇 | Noboru Tsubaki
04_A 堀 浩哉 | Kosai Hori
05_A 高山 登 | Noboru Takayama

06_B 秋山 佑太 | Yuta Akiyama
07_D 岩村 遠 | En Iwamura
08_C 牛島 光太郎 | Koutarou Ushijima
09_B 繪畑 彩子 | Ayako Ebata
10_D 蛭子 未央 | Mio Ebisu
11_C 遠藤 麻衣 | Mai Endo
12_C 大久保 あり | Ari Ookubo
13_B 大原 舞 | Mai Ohara
14_C 岡田 鉄平 | Teppei Okada
15_D 片山 真理 | Mari Katayama
16_C 勝 正光 | Masamitsu Katsu
17_D 川田 龍 | Ryo Kawada
18_D 菊谷 達史 | Satoshi Kikuya
19_B 金 仁淑 | Insook Kim
20_C 金 サジ | Sajik Kim
21_C 木村 剛士 | Takeshi Kimura
22_B キュンチョメ | Kyun-Chome
23_C 國政 サトシ | Satoshi Kunimasa
24_B 黒宮 菜菜 | Nana Kuromiya

NO　展示ギャラリー名

25_D 小坂 学 | Manabu Kosaka
26_D 小林 紗世子 | Sayoko Kobayashi
27_D 近藤 正勝 | Masakatsu Kondo
28_D 斉と 公平太 | Kouheita Saito
29_C 笹岡 由梨子 | Yuriko Sasaoka
30_C 澤田 華 | Hana Sawada
31_C 島本 了多 | Ryota Shimamoto
32_C 下出 和美 | Kazumi Shimode
33_D 杉浦 藍 | Ai Sugiura
34_D 杉山 卓朗 | Takuro Sugiyama
35_D スクリプカリウ落合 安奈 | Ana Scripcariu-Ochiai
36_B 鈴木 淳 | Atsushi Suzuki
37_C 鈴木 のぞみ | Nozomi Suzuki
38_B 高橋 功樹 | Koju Takahashi
39_C 谷中 佑輔 | Yuske Taninaka
40_D 玉田 多紀 | Taki Tamada
41_C 築山 有城 | Yuki Tsukiyama
42_C 寺江 圭一朗 | Keiichiro Terae
43_D 天牛 美矢子 | Miyako Tengyu
44_C 富田 正宣 | Masanori Tomita
45_C ナカダ マコト | Makoto Nakada
46_C 中村 太一 | Taichi Nakamura
47_D 西 太志 | Taishi Nishi
48_D 西永 怜央菜 | Reona Nishinaga

NO　展示ギャラリー名

49_B 福田 真知 | Masakazu Fukuta
50_C 布施 琳太郎 | Rintaro Fuse
51_D 堀 貴春 | Takaharu Hori
52_D 松田 啓佑 | Keisuke Matsuda
53_C 宮北 裕美 | Hiromi Miyakita
54_B 宮本 穂曇 | Hozumi Miyamoto
55_D 迎 英里子 | Eriko Mukai
56_C 村上 慧 | Satoshi Murakami
57_D 村田 奈生子 | Naoko Murata
58_D 村田 宗一郎 | Soichiro Murata
59_C 持田 敦子 | Atsuko Mochida
60_B 森 栄喜 | Eiki Mori
61_D 安原 千夏 | Chinatsu Yasuhara
62_D 柳井 信乃 | Shino Yanai
63_C 山元 彩香 | Ayaka Yamamoto
64_B 山本 聖子 | Seiko Yamamoto
65_D 楊 珪宋 | Keiso Yo
66_D 米倉 大五郎 | Daigoro Yonekura
67_B 藍 仲軒 | Chunghsuan Lan
68_C 李 晶玉 | Jong-Ok Ri
69_B 安木 | AINWOODS
70_C ユニス リュック | Eunice Luk
71_B マーラ・コッツォリーノ | Mara Cozzolino
72_D パトリック・クルーズ | Patrick Cruz

6. 屋上エリア

作家推薦者・出品作家

■ 作家推薦者

Gallery OUT of PLACE TOKIO

奈良を拠点とする Gallery OUT of PLACE の東京支店として、2009年1月港区広尾エリアに開設されました。2014年2月末に 3331 Arts Chiyoda に移転し、正式名称を Gallery OUT of PLACE TOKIO とし新たにスタートを切ることになりました。ギャラリー名の OUT of PLACE は、エドワード・サイードの同名自叙伝が由来となり、どこにも帰属意識のない者こそが、新しい道を作り、新しい価値観を創造出来るというサイードの考えを見習い、多ジャンルに渡る新進気鋭の作家、深い哲学や思想を表現する実力のある作家を紹介し、観る者の心に強いインパクトと豊かな時間をもたらしてくれればという考えのもと、奈良と東京から芸術の裾野を広げていきたいと考えています。
http://www.outofplace.jp/

3331 Arts Chiyoda

2010 年 3 月、新しいアートの形をつくる拠点として旧練成中学校を利用して千代田区外神田の地にオープン。
アーティスト主導、民設民営の参画、領域横断のスタイルで、東京と日本各地また東京と東アジアのハブとなる 21 世紀型のオルタナティブ・アートセンターです。
http://www.3331.jp/

■ 屋上エリア出品作家：7 名

石毛 健太
Kenta Ishige

小川 真生樹
Maiki Ogawa

栗原 良彰
Yoshiaki Kuribara

中島 崇
Takashi Nakajima

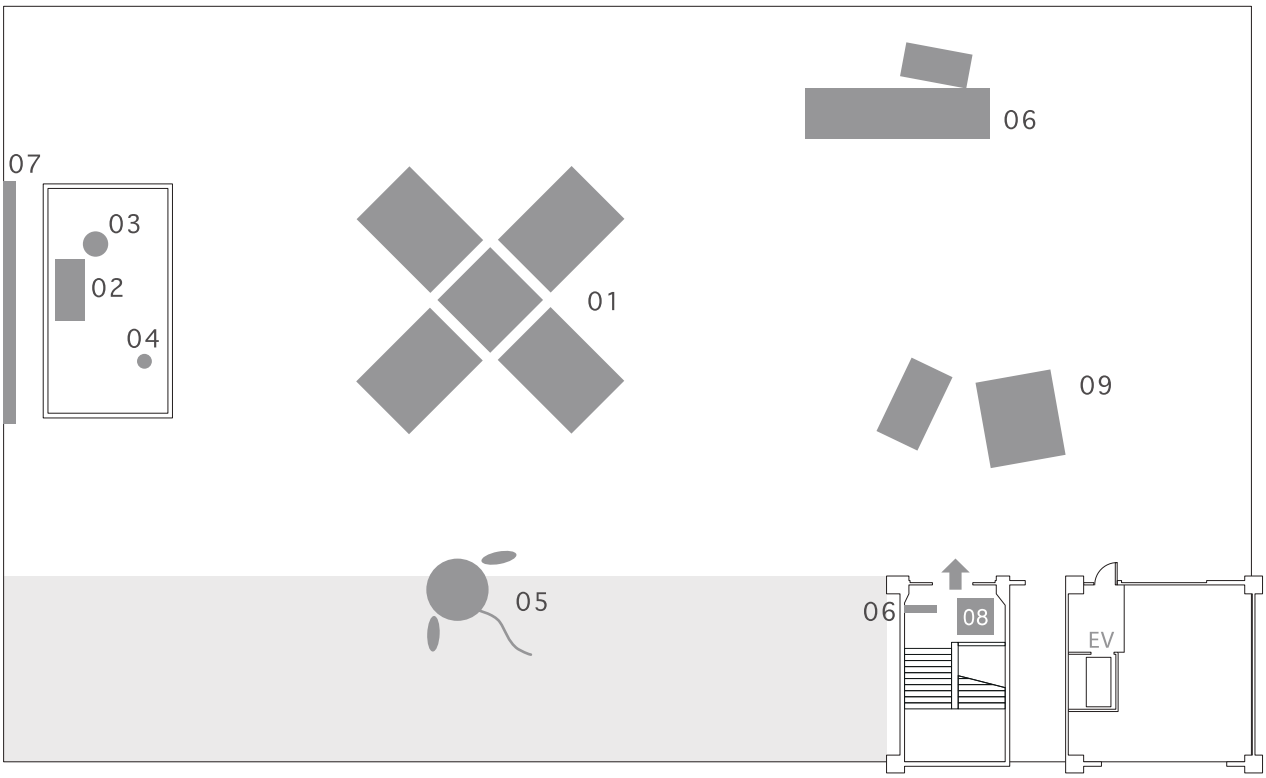
藤林 悠
Haruka Fujibayashi

BIEN
BIEN

やんツー
yang02

会場レイアウト

屋上



出展作家

01　中島崇
02
03　石毛健太
04
05　小川真生樹
06　栗原良彰
07　藤林悠
08　BIEN
09　yang02

7. 2F 体育館エリア

出展ギャラリー・団体

独自の視点と運営ポリシーで活動するコマーシャルギャラリーや美術団体の競演に加え、美術系大学がブース出展し、現状のアートマーケットの活性化とともに、次世代のアートマーケットの拡充も視野に入れた取り組みも行いました。滋賀県からは、アーツ千代田 3331 の主要事業のひとつ『ポコラート』に数々のアーティストを送り出している福祉事業所〈やまなみ工房〉がブース出展し、アール・ブリュットやアウトサイダー・アートという枠にとらわれない、より広い世界へとアートの領域を広げる試みを行いました。一方で、積極的に海外からアーティストやギャラリーも誘致し、韓国の現代アートのギャラリー４団体のほか、米国からは〈Blum & Poe〉が出展。大きな話題となりました。

Blum & Poe ［ロサンゼルス, ニューヨーク, 東京 I Los Angeles, New York, Tokyo］
＊体育館エリア サテライト会場（1階 104）

中村一美、石川順恵、アレキサンダー・トヴボルグ、安野谷昌穂、七搦綾乃、
福本健一郎、藤本玲奈、大井戸猩猩

コバヤシ画廊 GALLERY KOBAYASHI ［東京 I Tokyo］

岡村桂三郎、村上 早

KANA KAWANISHI GALLERY ［東京 I Tokyo］

藤元 明、藤崎了一、藤間謙二、長谷川寛示

コウイチ・ファインアーツ KOUICHI FINE ARTS ［大阪 I Osaka］

山本智子、ドリス・バインベルガー、ユーレ・ケーパリッヒ、コーネリア・ホフマン

gallery G ［広島 I Hiroshima］

青原恒沙子、穐丸我聞、諫山元貴、島村祥太、坂本 淳、手嶋勇気

:b Arts（COLONB ARTS）［ソウル I Seoul］

이태량、조혜련、정규리、나빈、조영숙

The Soul of Soil [ソウル I Seoul]

李鍾愛、朴賢玉、朱玟宣

CONCEPT SPACE/Ais CONCEPT SPACE/Bis [群馬 I Gunma]

アート アンド ランゲージ、アンジュ・レッチア、白川昌生、中野西敏弘、
ハンネ・ダーボーベン、福田周平、宮 康太、宮崎優花、リチャード・セラ、
ロジャー・アックリング

Gallery IRRITUM Tokyo [東京 I Tokyo]

Hongmin LEE,Wook HEO, Sungmin AHN, Minho KWON, KURAI, Sukho KANG

Gallery STAN [ニューヨーク & ソウル I NY & Seoul]

Sambypen, Grafflex, Shinhong Gwon

羊画廊 HITSUJI-GARO [新潟 I NIIGATA]

ワタナベ メイ、荒井 英、宮下拓実、竹田一紀、前山 忠

ONJI TAE PROJECT [東京 I Tokyo]

隠地 妙、宮坂了作、末永恵理

藤屋画廊 FUJIYA GALLERY ［東京 I Tokyo］

彫体刻感（佐藤正和重孝、椎名澄子、長谷川登、松本涼、皆川嘉博、福田豊、山本大介）

トーキョーアーツアンドスペース
Tokyo Arts and Space ［東京 I Tokyo］

福田絵理、平田尚也、堀 園実、牧園憲二、迎 英理子

ART ROUND EAST ［東京, 埼玉, 千葉, 茨城 I Tokyo, Saitama, Chiba, Ibaraki］

小野澤 峻、傍嶋 賢、髙田純嗣、西川 汐、三木麻郁、柳原絵夢、Hir Yuk Kim & Other

やまなみ工房 Atelier YAMANAMI ［滋賀 I Shiga］

吉川秀昭、鎌江一美、岩瀬俊一

武蔵野美術大学 MUSASHINO ART UNIVERSITY ［東京 I Tokyo］

近藤太郎、山下夏海、山田ひかる

東北芸術工科大学 TOHOKU CALLING ［山形 I Yamagata］
Tohoku University of Art and Design TOHOKU CALLING

三浦彩希、後藤有美、青山 夢、亀山晴香

多摩美術大学 アキバタマビ21 [東京 I Tokyo]
Tama Art University AKIBATAMABI21

ドッグヘルスクラブ、ひつじ

愛知県立芸術大学 Aichi University of the Arts [愛知 I Aichi]

辻 將成、つづきりょうこ、小林彩乃、浦野貴識、田口 薫、野田千晴

美学校 Bigakko [東京 I Tokyo]

中島晴矢、竹浪音羽、西尾 檀、三原 回、キボリコキボリオ、鶴田 崇、平間貴大、
木村哲雄、貝塚 歩、棰石憲蔵、皆藤 将、堀田知聖

横浜美術大学 [神奈川 I Kanagawa]
YOKOHAMA UNIVERSITY OF ART & DESIGN

金親 敦、河本 蓮大朗、高橋美衣

秋田公立美術大学 Akita University of Art [秋田 I Akita]

菊地暁子、小松実紀

東京藝術大学大学院中村研究室 [東京 I Tokyo]
Tokyo University of the Arts, Nakamura Laboratory

村山悟郎

会場レイアウト

体育館

出展ギャラリー

01 コバヤシ画廊
02 KANA KAWANISHI GALLERY
03 コウイチ・ファインアーツ
04 gallery G
05 :b Arts(COLONB ARTS)
06 The Soul of Soil
07 CONCEPT SPACE/Ais
CONCEPT SPACE/Bis
08 Gallery IRRITUM Tokyo
09 Gallery STAN
10 羊画廊
11 ONJI TAE PROJECT
12 やまなみ工房
13 秋田公立美術大学
14 横浜美術大学
15 美学校
16 愛知県立芸術大学
17 多摩美術大学
アキバタマビ21
18 東京藝術大学大学院
中村研究室
19 東北芸術工科大学
TOHOKU CALLING
20 武蔵野美術大学
21 藤屋画廊
22 トーキョー
アーツアンドスペース
23 ART ROUND EAST

サテライト(1階104) Blum & Poe

8. 教室エリア

出展ギャラリー・団体

フェア会場となるアーツ千代田 3331 に入居するギャラリーも“教室エリア”としてアートフェアに参加。ギャラリーごとに個展を開催し、共にアートフェアをつくり、盛り上げて頂きました。3F の〈アーツカウンシル東京 ROOM302〉や〈日々の明々後日〉では、アートプロジェクトのアーカイブなどを公開。B1F の B108 では、アーツ千代田 3331 によるアーティスト・イン・レジデンスプログラム〈AIR3331〉に参加している海外アーティストの成果発表展が開催されました。

アキバタマビ21

ucnv、本山ゆかり、小林椋、時里充 「フィジーク トス」

京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 東京ギャラリー

「隠れた都市の姿――文脈と創造を架橋する映像」

Gallery KIDO Press

玉田多紀 「蓮太郎ー成長・記憶・再生ー」

Gallery IRRITUM Tokyo

Wook HEO、Hongmin LEE、他 「GALLERY COLLECTION SHOW」

nap gallery

ジョナスメカス、高橋恭司「Chibacrome / type-c [The manners of Photography #5]」

Gallery OUT of PLACE TOKIO

関 智生 「青花」

出展ギャラリー・団体

Bambinart Gallery
内藤京平「luna o lunar」

CfSHE Gallery
ローラ・ボズウェル、マーラ・コッツォリーノ
「木版画クロスカルチャー ヨーロッパと日本」

佐賀町アーカイブ
柳井信乃「The Deep End」

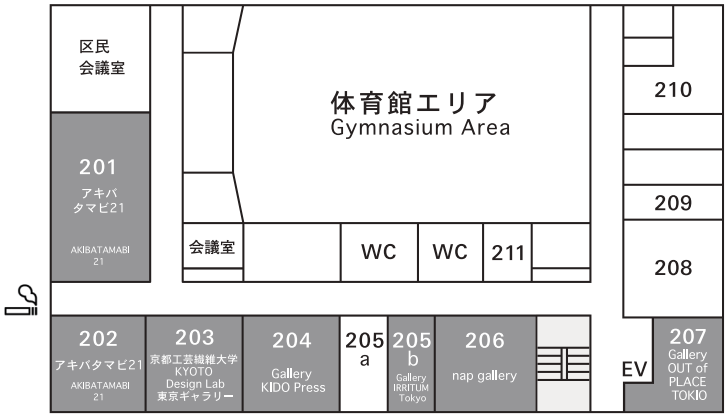
アーツカウンシル東京ROOM302
「東京アートポイント計画の10年とこれから Tokyo Art Research Lab Open Room 2019」

日々の明々後日

AIR 3331
エラ・バテ「AIR 3331成果発表展『Notes on Memory and Imagination』」

会場レイアウト

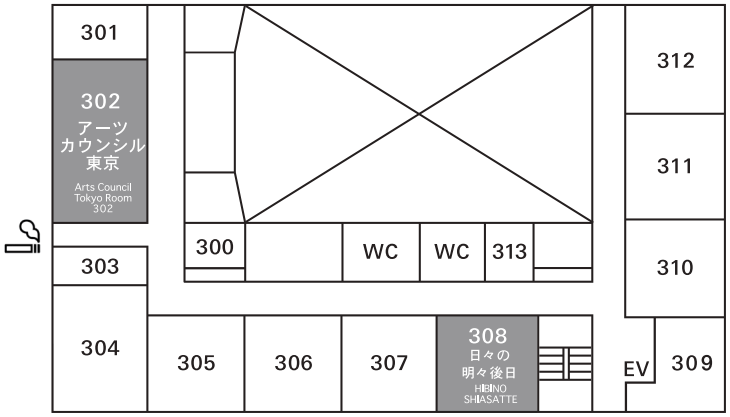
2F



出展ギャラリー

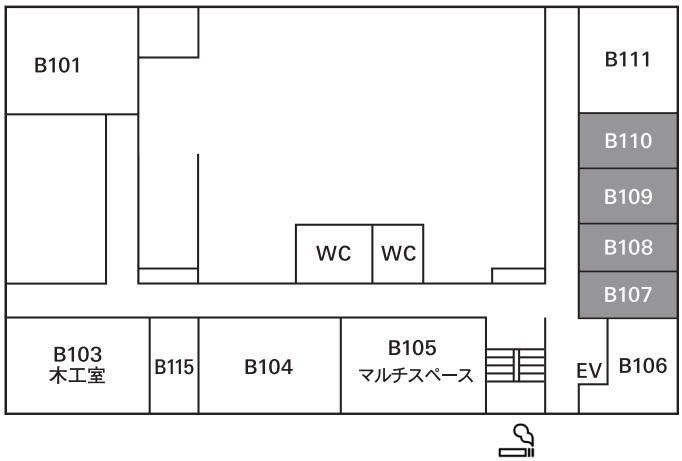
201　アキバタマビ21
202　アキバタマビ21
203　京都工芸繊維大学
　　KYOTO Design Lab 東京ギャラリー
204　Gallery KIDO Press
205b Gallery IRRITUM Tokyo
206　nap gallery
207　Gallery OUT of PLACE TOKIO

3F



302　アーツカウンシル東京
308　日々の明々後日

B1F



B107　Bambinart Gallery
B108　AIR3331
B109　CfSHE Gallery
B110　佐賀町アーカイブ

9. パブリックエリア／サテライト会場

階段室／再現壁画

佐々木 耕成　Kosei Sasaki

1928 年　熊本県生まれ
2010 年 「佐々木耕成展「全肯定 /OK. PERFECT. YES.」」3331 Arts Chiyoda、東京
2012 年 「館林ジャンクション」群馬県立館林美術館、群馬
2012 年 「佐々木耕成「熊本、シベリア、満州、NY、黒保根、そして神田」ー AIR 3331」旧電機大学跡地、東京
2018 年 4 月　群馬県にて逝去
2018 年 10 月 「変革の煽動者 佐々木耕成アーカイブ」熊本県立美術館 美術館コレクション展示室、熊本

1960 年代に「ジャックの会」をはじめとする前衛芸術運動の最前線で活躍し、その後 70 年代にニューヨークのカウンターカルチャーの只中で芸術思想を練り上げてきたアーティストです。80 年代に日本に帰国した当時は美術界との関係を一切絶っていましたが、2000 年代初頭より、群馬県赤城山麓の自らの手で建てたアトリエで再び絵画を制作するようになり、2018 年 4 月に逝去するまで、精力的に絵筆をふるうことを止めませんでした。

この再現壁画は「全肯定 /OK. PERFECT. YES.」展で展示された「作品 #53」(2010 年) と、2018 年 4 月に逝去した佐々木の郷里にある熊本県立美術館にて同年 10 月に開催された個展「変革の煽動者 佐々木耕成アーカイブ」で展示された「無題」(2017 年) の 2 点の作品をそれぞれ再構成したものです。
壁画の制作は日本ペイント株式会社より水性調色塗料のご協賛および「ダイヤモンドコート」認定施工店による塗装のご協力を頂き、実現いたしました。

協賛 ： 日本ペイント株式会社　　協力 ： ダイヤモンドコート
企画 ・ 監修 ： 中村 政人 (3331 Arts Chiyoda 統括ディレクター)

サカタアキコ
Akiko Sakata

[展示場所：2F 体育館舞台]

立体造形作家
武蔵野美術学園彫塑科卒業。
在学中より現在まで、劇団「指輪ホテル」の美術を担当。
イラスト、立体作品制作、舞台美術作品を国内外で発表。
楽器ケースやバック・各種ケース等のオーダーメイドのブランド『diet-chicken』主宰。

中村 政人
Masato Nakamura

[展示場所：1F エントランス]

1963 年 秋田県生まれ
1989 年 東京芸術大学大学院美術研究科修了
1992 年「中村と村上ーソウル」スペースオゾン、ソウル
1993 年「ザ・ギンブラート」銀座全域、東京
1999 年 2000 年、2002 年「秋葉原 TV」秋葉原電気街全域、東京
2001 年 第 49 回ヴェニス・ビエンナーレ「ファースト＆スロウ」
日本館、ヴェネチア
2015 年「中村政人 個展「明るい絶望」」アーツ千代田 3331、東京

1963年秋田県大館市生まれ。アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。アートを介してコミュニティと産業を繋げ、文化や社会を更新する都市創造のしくみをつくる社会派アーティスト。第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表。平成22年度芸術選奨受賞。2018 年日本建築学会文化賞受賞。1997年よりアート活動集団「コマンドN」を主宰。秋田県大館市等で地域再生型アートプロジェクトを多数展開。プロジェクトスペース「KANDADA」(2005-09) を経て、2010 年より民設民営のアートセンター「アーツ千代田 3331」（東京・千代田区）を立ち上げる。2011 年より震災復興支援「わわプロジェクト」、2012 年より東京・神田にて「TRANS ARTS TOKYO」を始動。2015 年、個展「明るい絶望」開催。2016 年よりプロジェクトリーダーを育成する「プロジェクトスクール@3331」を開校。著書に「美術と教育」「新しいページを開け！」等。

高山 登 Noboru Takayama 「遊殺 - 2019」

[展示場所：2F 212、B1F 通用口前] ＊ほか 1F メインギャラリー内 特別企画展「遊殺・以後」にも出品あり

造形作家

1944年 東京生まれ。1970年 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。1990～1991年、文部科学省在外研究員として、P.S1 Museum,international Stujio Artist,N.Y.Cにて制作を行う。
高山登は、「枕木」や鉄、ワックスなど物質感の強い素材によって、特定の場所を緊密な空間に変容させるインスタレーション作品を制作し、日本の現代美術における重要な役割を果たしてきた。
「もの派」の作家として論じられることも多く、展示空間や周囲の環境を深く考察したうえで行われるその造形は、1960年代末から今日まで一貫してゆるぎがない。

[展示場所：2F 212]「遊殺 -2019」

[展示場所：B1F 通用口（屋外）]「遊殺 -2019」

＊3331 ART FAIR 2019 特別パフォーマンス 田中泯「場踊り」での高山登作品（右 壁面）との競演

[展示場所：B1F 通用口（屋内）]
「ペーパーワーク 2018－1」
「ペーパーワーク 2018－2」

井上 尚子＋白須 未香 Hisako Inoue + Mika Shirasu 「匂いの図書館 / The Library of Smell」

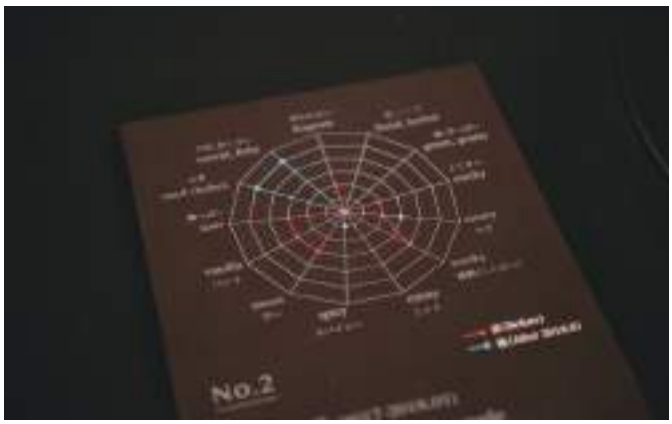
[展示場所：3F 313] ＊3331 Arts Chiyoda 推薦作家

井上 尚子

1974 年 横浜生まれ。1999 年女子美術大学大学院美術研究科版画専攻修了。2005 年文化庁芸術家在外研修員として 1 年間 NY 在住。現在横浜在住。環境、文化、歴史を匂いから楽しむ「くんくんウォーク」を教育機関、美術館、図書館、植物館、企業, 公園、空港など国内外で開催。2006 年以降、アーティストや様々な研究者、異業種の方々とコラボレーション制作。視覚障害と聴覚障害者とのコラボレーションプログラムも開発開催。2016 年、The International artist in Villa Waldberta in Munich 参加。2017 年 Museum Villa Stuck in Munich にて「The Library of Smell」(collaboration with 嗅覚研究者：白須未香＋サウンドアーティスト：柴山拓郎) 展覧会 + ワークショップ開催。

白須 未香

東京生まれ。2009 年 東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻 , 生命科学博士取得。東京大学理学部生物化学科卒業、同大学院新領域創成科学研究科にて生命科学博士取得。2017 年日本味と匂学会研究奨励賞。現在、東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻にて特任助教。嗅覚を用いたコミュニケーションに興味を持ち、マウス、ワオキツネザル、ヒトを対象としたさまざまな嗅覚研究を行う。井上尚子氏とのコラボレーションでは、匂いの分析や最新の嗅覚研究についての解説を担当。本作品は JST、ERATO(JPMJER1202)、未来社会創造事業(JPMJMI17DC)の支援を受けた。



階段室／ウッドデッキ ー 鈴木昭男

鈴木 昭男 Akio Suzuki 「点音 in 3331 Arts Chiyoda（2018）」

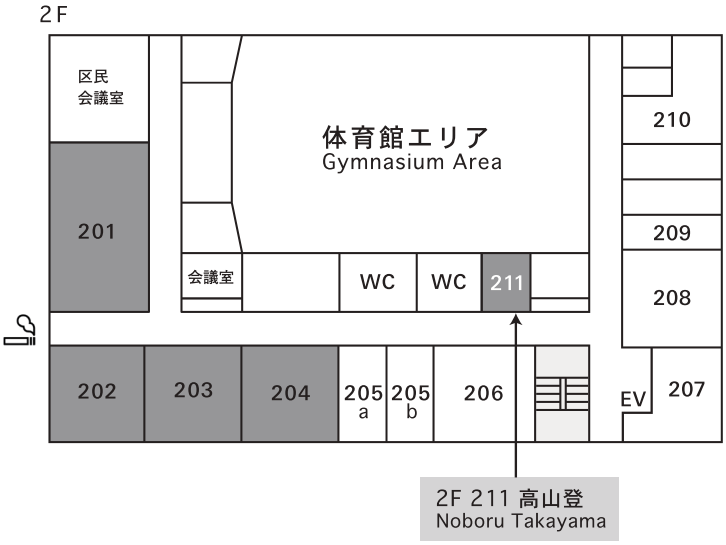
[展示場所 ： 3F 階段踊り場、1F ウッドデッキ]

1941 年生まれ 京丹後市在住。1963 年より「自修イベント」としての独自の探求をはじめる。1970 年にエコー音器 ANALAPOS を創作。1978 年、フェスティバル・ドートンヌ・パリを機に「コンセプチュアル・パフォーマンス」を始める。1988 年、子午線上の京都府網野町で「日向ぼっこの空間」を発表し一日自然の音に耳を澄ます。1996 年に開始した街のエコ - ポイントを探る「点音 (おとだ て)」プロジェクトを世界 30 都市以上で開催。日常のさまざまな素材から音を導き出しての演奏でも知られ、即興演奏家とのコラボレーションも多い。ドクメンタ 8(1987, ドイツ)、ドナウエッシンゲン 現代音楽祭 (1998, ドイツ)、大英博物館 (2002, イギリス)、ザツキン美術館 (2004, フランス)、AV・フェスティバル (2014, イギリス)、ドクメンタ 14(アテネ、2017)など、世界各地の美術展や音楽祭に招待されている。

[展示場所 ： 3F 階段踊り場] ＊常設展示

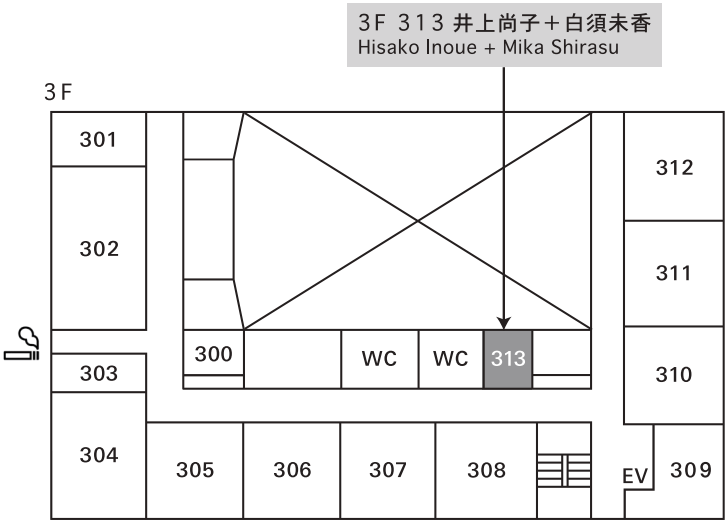
[展示場所 ： 1F ウッドデッキ] ＊常設展示

会場レイアウト

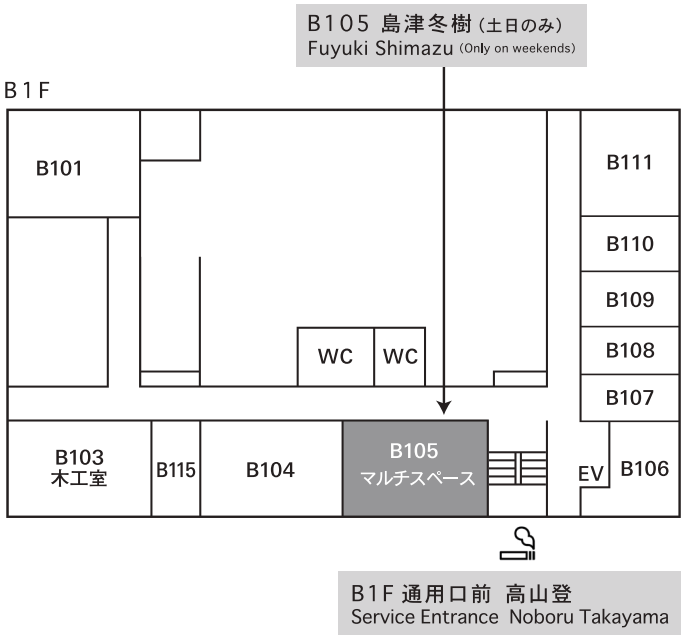


出展作家

2F　211高山登



F 313　井上尚子＋白須未香



B105　島津冬樹

B1F通用口前　高山登

サテライト会場 ー NOHGA HOTEL UENO

パートナーホテルの NOHGA HOTEL UENO では、3331 ART FAIR 2019 のサテライト会場として 2 作家の作品展示を行いました。
tokyobike の自転車で両会場を繋ぎ、来場者が会場を行き来する取り組みも行いました。また会期中、出品アーティストや関係者の方にもホテルをご利用いただきました。

佐藤 直樹 Naoki Sato [展示場所 : 1F ロビーギャラリー]

1961 年東京都生まれ。北海道教育大学卒業後、信州大学で教育社会学・言語社会学を学ぶ。美学校菊畑茂久馬絵画教場修了。1994 年、『WIRED』日本版創刊にあたり アートディレクターに就任。1998 年、アジール・デザイン (現アジール) 設立。2010 年、アートセンター「アーツ千代田 3331」の立ち上げに参画。2012 年からスタートしたアートプロジェクト「TRANS ARTS TOKYO (TAT)」を機に絵画制作へと重心を移し、「大館・北秋田 芸術祭 2014」などにも参加。札幌国際芸術祭 2017 バンド メンバー (デザインプロジェクト担当)。2019 年 6 月 29 日(金)〜10 月 20 日(日)まで、太田市美術館・図書館で初の公立美術館での個展を行う。3331 デザイン ディレクター。美学校「絵と美と画と術」「描く日々」 講師。多摩美術大学教授。

[左] “TOKYO, 20170518_1” 2017年 , シナベニヤに木炭 , 915×910mm
[中] “TOKYO, 20170518_2” 2017年 , シナベニヤに木炭 , 915×910mm
[右] “MITAKA_AZAMI” 2017 年, シナベニヤに木炭, 726×1029mm

[左] “部屋で生えている。1” No.5,2018 年 , シナベニヤに木炭 ,870×870×9mm
[右] “部屋で生えている。1” No.6,2018 年 , シナベニヤに木炭 ,870×870×9mm

There, It has grown., 2017, Lithograph, ED20, 565×610mm (Framed)

鈴木 昭男 Akio Suzuki 「INSPIRATION=Improvisation : Markingシリーズ」

[展示場所 : 2F ライブラリー]

1941 年生まれ 京丹後市在住。1963 年より「自修イベント」としての独自の探求をはじめる。1970 年にエコー音器 ANALAPOS を創作。1978 年、フェスティバル・ドートンヌ・パリを機に「コンセプチュアル・パフォーマンス」を始める。1988 年、子午線上の京都府綱野町で「日向ぼっこの空間」を発表し一日自然の音に耳を澄ます。1996 年に開始した街のエコ - ポイントを探る「点音 (おとだ て)」プロジェクトを世界 30 都市以上で開催。日常のさまざまな素材から音を導き出しての演奏でも知られ、即興演奏家とのコラボレーションも多い。ドクメンタ 8(1987, ドイツ)、ドナウエッシンゲン 現代音楽祭 (1998, ドイツ)、大英博物館 (2002, イギリス)、ザツキン美術館 (2004, フランス)、AV・フェスティバル (2014, イギリス)、ドクメンタ 14(アテネ、2017)など、世界各地の美術展や音楽祭に招待されている。

[右] INSPIRATION=Improvisation : Marking#1,2018 年 , シルクスクリーン ,350×520mm(image),540×740mm(framed)
[左] INSPIRATION=Improvisation : Marking#2,2018 年 , シルクスクリーン ,342×530mm(image),540×740mm(framed)

10. 関連イベント

イベント概要

会期中にトークイベント７企画、パフォーマンス３企画、ツアー２企画（各２回実施）、ワークショップ３企画、マーケット２企画の合計 17 企画を実施。多彩な切り口から、3331 ART FAIR 2019 をお楽しみいただけるきっかけを提供しました。

■3月6日（水）14:00-17:00
3331 ART FAIR 2019 会場内

「ファーストチョイス」

■3月6日（水）20:30-22:00
1F コミュニティスペース

「オープニング・レセプション、懇親会」

トーク

①3月6日（水）18:00-19:30　2F 体育館 イベントスペース

特別対談
「遊殺・以後｜高山 登 × 椿 昇 × 日比野克彦 × 藤 浩志」

■料金：無料／要入場チケット／要予約
■定員：25 名（着席）
■登壇者：高山 登（造形作家）、椿 昇（現代美術家／京都造形芸術大学美術工芸学科・教授）、日比野克彦（アーティスト／東京藝術大学教授）、藤 浩志（美術家／秋田公立美術大学大学院教授・副学長）
■モデレーター：中村政人（アーティスト／アーツ千代田 3331 統括ディレクター東京藝術大学教授）

3331 ART FAIR 2019 の 1F メインギャラリー内で開催した特別企画展「遊殺・以後」に出品するアーティストを迎え、当時の制作態度や作品が生み出された時代感を振り返るとともに、今の時代へと脈々とつながる現代美術の流れと今の表現を再検証しました。

参加人数実績：30 名着席
立ち見 30 名以上

②3月7日（木）19:00-20:00　2F 体育館 イベントスペース

遠山正道 × 中村政人
「新しいアーティスト支援のかたち｜The Chain Museum × 3331 ART FAIR」

■料金：無料／要入場チケット／要予約
■定員：25 名（着席）
■登壇者：
遠山正道（The Chain Museum 代表／株式会社スマイルズ代表取締役社長）、
中村政人（アーティスト／アーツ千代田 3331 統括ディレクター／東京藝術大学教授）

新作の発表を心待ちにし、アーティストの成長を見守り続けるアートコレクターたちの、次なる支援の方法とは？自身もコレクターでありアート界に新風を吹き込む The Chain Museum を立ち上げたばかりの遠山正道氏をお招きし、「作品を買うこと＝アーティストを直接支援すること」を創設以来掲げる 3331 ART FAIR 総合ディレクター中村政人とともに、これからの時代の新しいアーティストの支援の方法について語り合う特別トークセッションを開催しました。

参加人数実績：25 名着席、
立ち見 10 名以上

③3月8日（金）14:00-15:30　2F 体育館 イベントスペース

クロストーク
「学芸員 × 美術評論 それぞれの視点で語るアートフェア」

■ 料金：無料／要入場チケット／要予約
■ 定員：25 名（着席）
■ ゲスト：笠原美智子（石橋財団ブリヂストン美術館副館長）、黒澤浩美（金沢 21 世紀美術館チーフ・キュレーター）、福住 廉（美術評論家）
■ モデレーター：中村政人（アーティスト／アーツ千代田 3331 統括ディレクター／東京藝術大学教授）

1F メインギャラリー出品作家の推薦者 3 名をお招きし、学芸員、美術評論の視点から「アートフェア」について語るクロストークを開催しました。アートフェアそのものがはらむ課題や、アーティストとアートフェアの関係性など、それぞれの立場や観点から「作品を販売する」だけでないアートフェアのさまざまな側面についてお話しいただきました。

参加人数実績：25 名着席
立ち見 10 名以上

④3月8日（金）17:00-18:30　2F 体育館 イベントスペース

クロストーク
「続・アートの現場とマーケット
～出展 6 大学 + 美学校によるトーク」

■ 料金：無料／要入場チケット／要予約
■ 定員：25 名（着席）
■ ゲスト（当日出席者）：
倉地比沙支（版画家、愛知県立芸術大学油画専攻教授・同大学資料館長）、藤浩志（美術家／秋田公立美術大学大学院教授・副学長）、松田愛子（多摩美術大学 総合企画室）、松蔭浩之（現代美術家、写真家／美学校）、 三田村光土里（美術作家／美学校）、 袴田京太朗（彫刻家・武蔵野美術大学教授）、深井聡一郎（東北芸術工科大学 美術科工芸コース 准教授 大学院芸術文化専攻長）

2018 年度に好評を博した、3331 ART FAIR に出展する美術大学＆美術学校によるトークの続編を開催しました。3331 ART FAIR 2019 の 2 階体育館エリアに出展した美術大学・美術学校で日々現場に立つ各大学の教授や講師陣が登壇し、現在、そしてこれからの美術教育とアートマーケットの関係性や可能性についてお話しいただきました。

参加人数実績：25 名着席
立ち見 10 名以上

⑤3月8日(金) 19:00-21:00　3331 ART FAIR 会場内 ＋ B111

トーク＆ツアー

「ビジネスパーソンのためのディレクタートーク＆アートフェアツアー」

■料金：1,000 円／要入場チケット／要予約
■定員：20 名（着席）
■講師：中村政人（アーティスト／アーツ千代田 3331 統括ディレクター／東京藝術大学教授）

文化や社会を更新する都市創造のしくみをつくり出す社会派アーティスト・中村政人による、経営者をはじめとするビジネスパーソン向けのトーク＆ツアーを開催。アートフェア会場を巡り作品を鑑賞しながら、これからの社会を生き抜き、新たな分野やビジネスを切り開くために求められる思考や能力、術を「アート × 産業 × コミュニティ」をテーマに活動するアーティストの観点からお話ししました。

参加人数実績：70 名（一般参加 20 名、関係団体 50 名）

⑥3月9日(土) 18:00-19:00　2F 体育館 イベントスペース

クロストーク

「Saturday Lounge with Artists ～海外で活動するアーティストたち～」

■料金：無料／要入場チケット／要予約
■定員：25 名（着席）
■ゲスト：近藤正勝（アーティスト／イギリス在住）、AINWOODS（アーティスト／台湾出身）、Eunice Luk（アーティスト／カナダ出身・東京在住）、Chunghsuan Lan（アーティスト／台湾出身）、Patrick Cruz（アーティスト／カナダ在住）
■ホスト：木村博行（3331 Arts Chiyoda アーティスト・イン・レジデンス マネージャー）、稲葉智子（3331 Arts Chiyoda 広報）

今年、3331 ART FAIR 2019 国際的なフェアに向けた一歩を踏み出した 3331 ART FAIR 2019。そこで、海外から来日中の出品アーティスト達を囲んだトーク「Saturday Lounge」を開催。自身の作品の紹介や、各国の美術大学のシステムや卒業後の展開、ギャラリーとの関係構築、アート活動の傾向から、「制作スタジオの確保って大変なの？」「生活と制作はどうやって両立しているの？」といった素朴な疑問など、それぞれの国のリアルなアート事情についてお話しいただきました。

参加人数実績：25 名着席
立ち見 10 名以上

⑦3月10日（日）14:00-15:30　2F 体育館 イベントスペース

特別対談
「堀浩哉 × 黒瀬陽平『70年代以降の表現』と『3.11 以降の表現』」

■ 料金：1,000 円／要入場チケット／要予約
■ 定員：25 名（着席）
■ ゲスト：堀浩哉（美術家）、黒瀬陽平（美術家、美術評論家）

「遊殺・以後」出品作家の堀浩哉氏と、美術家・美術評論家であり、ゲンロンカオス * ラウンジ新芸術校主任講師も務める黒瀬陽平氏をお招きした特別対談を開催しました。「遊殺・以後」に展示した作品や 2015 年の 3.11 に行ったパフォーマンス「記憶するために」の映像を振り返るとともに、堀氏と黒瀬氏それぞれの眼差しで見た「70 年代以降の表現」と「3.11 以降の表現」についてお話いただきました。

参加人数実績：25 名着席
立ち見 10 名以上

パフォーマンス

①3月6日（水）20:00-20:30　屋外

特別パフォーマンス
田中泯「場踊り」

■ 料金：無料／要入場チケット
■ 出演者：田中泯（ダンサー）

3331 ART FAIR 2019 の初日に、みずからの身体の置かれた場に感応しながら、従来のダンスの枠にとらわれない自在な身体表現の可能性を追求する田中泯氏の「場踊り」が行なわれました。

参加人数実績：100 名以上

②3月6日（水）17:30-17:45　1F メインギャラリー

パフォーマンス公演
「合言葉／Sweet Shibboleth」

■ 料金：無料／要入場チケット
■ 作演出・出演 / 森栄喜（写真家）、石倉来輝（俳優）

個々の関係性を軸に、アイデンティティやジェンダー、多様性といった私たちの社会が内包する課題を浮き彫りにする作品を制作する森栄喜（1階メインギャラリー出品作家）と、俳優・石倉来輝による新作のパフォーマンスが行われました。

参加人数実績：40 名以上

③3月6日(水)、3月9日(土)、3月10日(日) 14:00-17:00
1F メインギャラリー

パフォーマンス「完璧なドーナッツをつくる」

■料金：無料／要入場チケット
■アーティスト：キュンチョメ

「アメリカのドーナツと沖縄のドーナツを合体させたら、穴のない完璧なドーナツができるのではないか？」というコンセプトのもと、「完璧なドーナッツをつくる」と題される映像作品を出展したキュンチョメが、自身の作品の前で、鑑賞者の方々にドーナツを食してもらうパフォーマンスを行いました。

参加人数実績：130 名以上（3 日間合計）

ツアー

①3月7日(木) 14:00-15:00、
3月9日(土) 13:30-14:30［全 2 回］
3331 ART FAIR 2019 会場内

ファミリー向けツアー
「みてみて！な～に？おやこで楽しむ鑑賞ツアー」

■料金：無料／要入場チケット／要予約
■定員：各回 10 組
■ガイド：稲葉智子（3331 Arts Chiyoda 広報）

アートを観に行く機会が減った、展覧会に行きたいけどこどもと一緒でも大丈夫か心配。そんな保護者の方も安心してご参加いただけるファミリー向けのツアーを行いました。
開放感あふれる屋上と館内最大の展示スペースである 1 階メインギャラリーの会場を中心に、親子の会話を楽しみながら作品を鑑賞しました。

参加人数実績：19 名（全 2 回合計）

②3月7日(木) 18:30-19:30、3月10日(日) 13:00-14:00［全 2 回］
3331 ART FAIR 2019 会場内

初心者向けツアー
「マイ・ファースト・アートを見つけよう」

■料金：無料／要入場チケット／要予約
■定員：各回 10 組
■ガイド：玉置 真（3331 Arts Chiyoda インスタレーション・マネージャー）

アートフェアに参加するのが初めての方、将来的にアート作品を購入してみたいと思っている方にオススメのビギナー向けツアーを行いました。参加者は「70 万円」という架空の予算のもと妄想ショッピングを楽しみながら、それぞれが購入したい作品を選びました。ツアーの最後には、作品選出の理由やポイントを発表し、参加者同士の対話を楽しみました。

参加人数実績：12 名

ワークショップ

①3月7日（木）19:00-20:30、3F 313（「匂いの図書館」展示室内）

匂いの図書館ワークショップ（井上尚子＋白須未香）

■ 料金：3,000 円／要予約
■ 定員：15 名
■ アーティスト：井上尚子（アーティスト）、白須未香（嗅覚研究者）

本の紙の痕跡や残香から、私たち人間の肉眼では可視化できない本の旅路、そして人との関係性を紐解いていきました。嗅覚研究者・白須未香氏による人間の嗅覚の仕組みや感覚に関する解説を交えながら自分たちの感覚について学び、"匂い"は記憶を手繰り寄せるだけでなく、自己を振り返り、他者を知るきっかけにもなり得るのではないか。そんな新鮮な体験を参加者同士で楽しみました。

参加人数実績：15名

②3 月 8 日（金）19:00-20:30、
3 月 9 日（土）15:00-17:00、
3 月 10 日（日）13:00-15:00、16:30-18:30［全 4 回］

「くんくんウォーク＠3331
～鼻のアンテナで巡るアートフェア～」

■ 料金：3,000 円（入場チケット込）／要予約
■ 定員：各回 15 名
■ アーティスト：井上尚子（アーティスト）

アーティスト・井上尚子氏による匂いと記憶をコミュニケーションツールとしたワークショップを開催。参加者は、時空を旅すると想定して発行される匂いの冊子「くんくんパスポート」を持って、アートフェアの作品や施設内を"くんくん"しながら、人の流れや作品が織りなす時間・場所の記憶を匂いから読み取り、素材から作品に変化するまでの見えない時間を想像し、時空をつなぐ匂いと記憶の旅に出かけました。

参加人数実績：21 名

③3 月 9 日（土）、3 月 10 日（日）各日 13:00-14:30［全 2 回］
B105 マルチスペース

「段ボールミュージアム at 3331 ＆ Carton Workshop - 段ボールから財布を作ろう」

■展示：入場無料
■ワークショップ：3,500 円（定員各回 15 名）
■アーティスト：島津冬樹／Carton

3331 ART FAIR 2019 会期中の 2 日間、「不要なものから大切なものへ」をコンセプトに世界 35 カ国を周って段ボールをコレクションし、財布などをつくる段ボールアーティスト・島津冬樹の、世界中から集めた段ボールコレクションを展示した「段ボールミュージアム at 3331」を開催。段ボールの深くて広い世界やその魅力を伝えるワークショップと財布やカードケースなどの販売も行いました。

参加人数実績：30 名

マーケット

①3 月 7 日（木）～3 月 10 日（日）
12:00-20:00 ＊3/9、3/10 日は 18:30 まで
1F コミュニティスペース ＊3/10 日のみ B1F で開催

「TOKYO BOOK PARK × 3331 ～トキメク古書のアートな広場～」

■料金：入場無料
■出店店舗：smokebooks、クラリスブックス、analog books、リズム＆ブックス、一角文庫、古書 瀧堂、東京くりから堂、ATELIER

デザイン・アート・哲学思想・文学・絵本・写真集・映画・ファッション・SF・漫画・サブカルチャー、昭和の古本や雑誌など、個性的な書店が多数出展。3331 ART FAIR にあわせてセレクトされた本が集まり特別な 4 日間になりました。

②3 月 10 日（日）11:00-18:00　1F コミュニティスペース

「3331 NeighborFood Market ～ 3331 ご近所の美味しいもの、集めました～」

■料金：入場無料
■出店店舗：うなぎ久保田、うさぎや CAFE、オレンチ、粥や佐藤、TETOKA、Burger & Milkshake CRANE

3331 ART FAIR に来場する多くの方々に 3331 近隣のおいしいものをご紹介したいと、地域に根付く老舗店や地元っ子いきつけの名店・最近話題の新店舗まで、オススメのグルメが大集結しました。

その他

①3 月 7 日（木）、3 月 9 日（土）各日 20:15-22:00［全 2 回］
1F Champ Divin 3331

「3331 ART FAIR 出展者・アーティスト懇親会」

■参加者：出展者、アーティスト、美術関係者
■参加人数実績：70 名

②3 月 9 日（土）14:00-16:00、3 月 10 日（日）11:30-13:30［全 2 回］
3331 ART FAIR 2019 会場内

クローズドツアー「五軒町々会ツアー」

■ガイド：宍戸遊美（3331 Arts Chiyoda 地域担当マネージャー）
■参加人数実績：6 名

③3 月 7 日（木）16:00-17:00、3 月 08 日（金）17:00-18:00［全 2 回］
3331 ART FAIR 2019 会場内

クローズドツアー
「3331 ART FAIR 2019 協力団体向け
エクスクルーシブツアー」

■ガイド：彦根延代（3331 ART FAIR 2019 マネージャー／3331 Arts Chiyoda 広報）
■参加人数実績：30 名

11. 3.11 チャリティオークション
@3331 ART FAIR 2019

開催概要と寄付報告

■概要：

3331 ART FAIR 2019 では、2011年の震災後すぐに発足した復興支援プロジェクト「わわプロジェクト」（運営：(一社)コマンドN）と連携し、復興支援を目的として『3.11 チャリティオークション』を実施しました。
オークション作品は、最低価格〈3,331円〉からスタートし、入札箱が開けられるまでに、最高額を入札した人が落札できるというシークレット方式で行いました。本オークションで入札された義援金（総額 ¥646,696）は、全額 NPO 法人 吉里吉里国へ寄付されました。

■会場：1F 3331 CUBE shop&gallery

■主催：(一社) コマンドN

■出品作家：
池田晶紀、岩井優、遠藤麻衣、片山真理、Hir Yuk Kim、栗原良彰、小林美穂、斉と公平太、佐々木浩一、宍戸遊美、スクリプカリウ落合安奈、SEMBL、都築響一、戸田祥子、豊嶋康子、中村政人、西尾美也、西村雄輔、Nerhol、林千歩、潘逸舟、藤原彩人、村山修二郎、山崎千尋、山本高之、吉野はるか、和田昌宏
計 27 組

■出品作品数：30 点　　■入札総数：124 件
■義援金総額：646,696 円

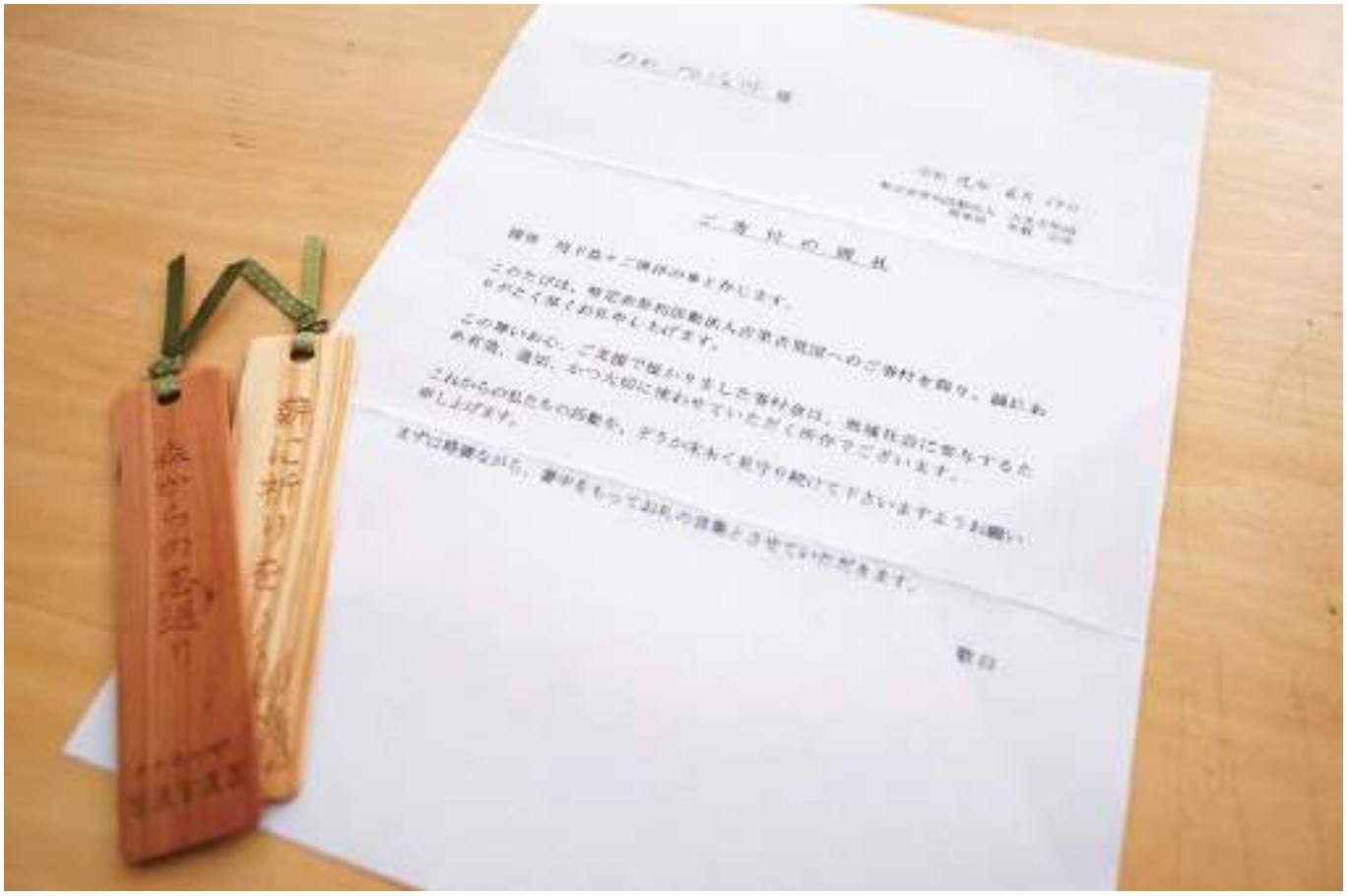
藤原彩人《空と色［燕］》
2013-2019
彫刻（施釉陶）

SEMBL《SF-14-NHNN-01 A+(A PLUS) / 2014 exhibition "NOT HERE NOT NOW" sample》2013
スニーカー（コットン、ゴム他）

池田晶紀《SAUNA》
2017
写真（ラムダプリント、アクリルマウント）

■寄付先：NPO 法人 吉里吉里国（岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里）

（一社）コマンド N が運営する「わわプロジェクト」は、東日本大震災を機に生まれた、創造的に活動する人たちをつなぐプラットフォーム。発足当時から、現地の活動家（復興リーダー）による多様な活動を紹介すべく取材を続けています。
NPO 法人吉里吉里国は、芳賀正彦（はが まさひこ）氏が発起人となり、震災から 1 ヶ月が経過する頃、瓦礫から集めたスギやアカマツを薪にして販売する「吉里吉里国 復活の薪」プロジェクトから活動をスタート。芳賀さんは被災直後から“犠牲者に恥ずかしくない生き方をしていきたい”と語り、現在は持続可能な地域づくりのため、吉里吉里の森林整備を行う「復活の森」プロジェクトや人材育成事業に取り組んでいます。



コマンド N からの義援金の寄付を受け、吉里吉里国様より、お礼状とともに、地元の杉を使った栞をいただきました。

12. パートナーシップ

パートナー団体様一覧

後援：

千代田区 Chiyoda City

千代田区観光協会

ARTS COUNCIL TOKYO

中華人民共和国
駐日本国大使館文化部

駐日韓国文化院 Korean Cultural Center

協賛：

Tansei Display

日本ペイント株式会社

VIVIVIT

COEDO

協力：

一般社団法人 アートのある暮らし協会

St+M Streetmedia

SoftBank Robotics

ダイヤモンドコート

tokyobike

Patron Project

美術Academy&School

WORKS CREATIVE

ワンピース倶楽部 ONE PIECE CLUB

OSAJI

3331 Galleries

メディアパートナー：

Art Galleries

GALLERY Monthly Art Magazine

HUFFPOST

美術手帖

美術の窓

ART iT

BNL

CINRA.NET

Diyer(s)

The Chain Museum

パートナーホテル：

NOHGA HOTEL UENO

パートナーイベント：

Art Fair Tokyo

ART in PARK HOTEL TOKYO 2019

パートナー団体様との連携例

各パートナー団体様には、会期前後に渡って、様々なご支援の形で 3331 ART FAIR 2019 に多大なるお力添えをいただきました。アーツ千代田 3331 スタッフ一同、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。こちらでは、パートナー団体様との連携の一例をご紹介して参ります。

〈パートナー団体様 ＊順不同〉

千代田区様、一般社団法人千代田区観光協会様、アーツカウンシル東京様、中華人民共和国駐日本国大使館文化部様、駐日韓国大使館様、韓国文化院様、株式会社丹青ディスプレイ様、日本ペイント株式会社様、株式会社ビビビット様、COEDOBREWERY 様、アートのある暮らし協会様、（一社）コマンド N 様、ストリートメディア株式会社様、ソフトバンクロボティクス株式会社様、ダイヤモンドコート様、tokyobike 様、パトロンプロジェクト様、美術 Academy&School 様、株式会社ワークス･クリエイティブ様、ワンピース倶楽部様、OSAJI 様、3331 Galleries の皆様、NOHGA HOTEL 様、月刊アートコレクターズ様、月刊ギャラリー様、ハフポスト日本版様、美術手帖様、美術の窓様、ART iT 様、BNL 様、CINRA.NET 様、DIYer(s) 様、The Chain Museum 様、Tokyo Art Beat 様。そして、アートフェア東京 2019 様、ART in PARK HOTEL TOKYO 2019 様

COEDOBREWERY 様

埼玉県に本社と醸造所を構えるクラフトビールの COEDOBREWERY 様には、3331 ART FAIR 2019 オープニングレセプションに、COEDO ビール 6 銘柄をご提供いただきました。

OSAJI 様

谷中に店舗を構える、スキンケアブランドの OSAJI 様には、3331 ART FAIR 2019 期間中、会場となるアーツ千代田 3331 の水場のアメニティとして、ハンドソープをご提供いただきました。また、関連イベントのファミリー向けツアー「みてみて！な～に？おやこで楽しむ鑑賞ツアー」の参加者のみなさまに、特別スキンケアセットのプレゼント提供をいただきました。

ソフトバンクロボティクス株式会社 様

アーツ千代田 3331 の 3F に入居される「Pepper アトリエ秋葉原 with SoftBank」（ソフトバンクロボティクス株式会社）様には、ロボットの Pepper を 4 台お貸し頂き、会場内各フロアに設置。3331 ART FAIR 2019 バージョンにプログラミングをされた Pepper が、会場の案内やお子さんと一緒に歌ったり踊ったりと、アートフェア期間中の頼れるサポートスタッフとして活躍してくれました。

ストリートメディア株式会社 様

アーツ千代田 3331 の 3F に入居される「ストリートメディア株式会社」様には、来場者の方への案内用にデジタルサイネージをお貸しだしいただき、会場内各フロアに設置いたしました。

tokyobike 様

tokyobike

東京を走るために作られた自転車「tokyobike（トーキョーバイク）」。谷中を本拠地とする tokyobike 様には、自転車６台をお貸し出しいただき、サテライト会場である NOHGA HOTEL 上野様との往復や、アーツ千代田 3331 近辺の散策に、90分間無料の自転車レンタルサービスをご提供いただきました。

The Chain Museum 様

The Chain Museum

株式会社 The Chain Museum 様が開発されたアーティスト支援アプリ ArtStiker のローンチに合わせ、3331 ART FAIR 2019 のエントランスにブースを設置。1F メインギャラリー出展アーティストを対象にアプリに展示作品の写真を掲載し、アプリを通じてコレクターやアートファンがアーティストにドネーションする機会をご提供いただきました。

13. デザイン／サイン計画／各種広報物

ロゴ・キービジュアル

アーツ千代田 3331 の館内全てでアートフェアを開催するために、建物をそのままビジュアル化。
エッジィでフレッシュ、オルタナティブな勢いを感じさせるカラフルな色使いで表現しています。

キービジュアル

サイン計画

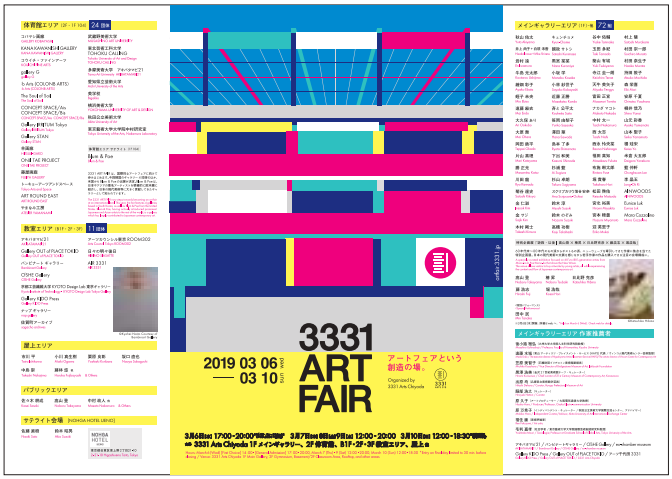
屋外バナー

メインギャラリーエントランス

館内フラッグ

チケットカウンター

B2 ポスター

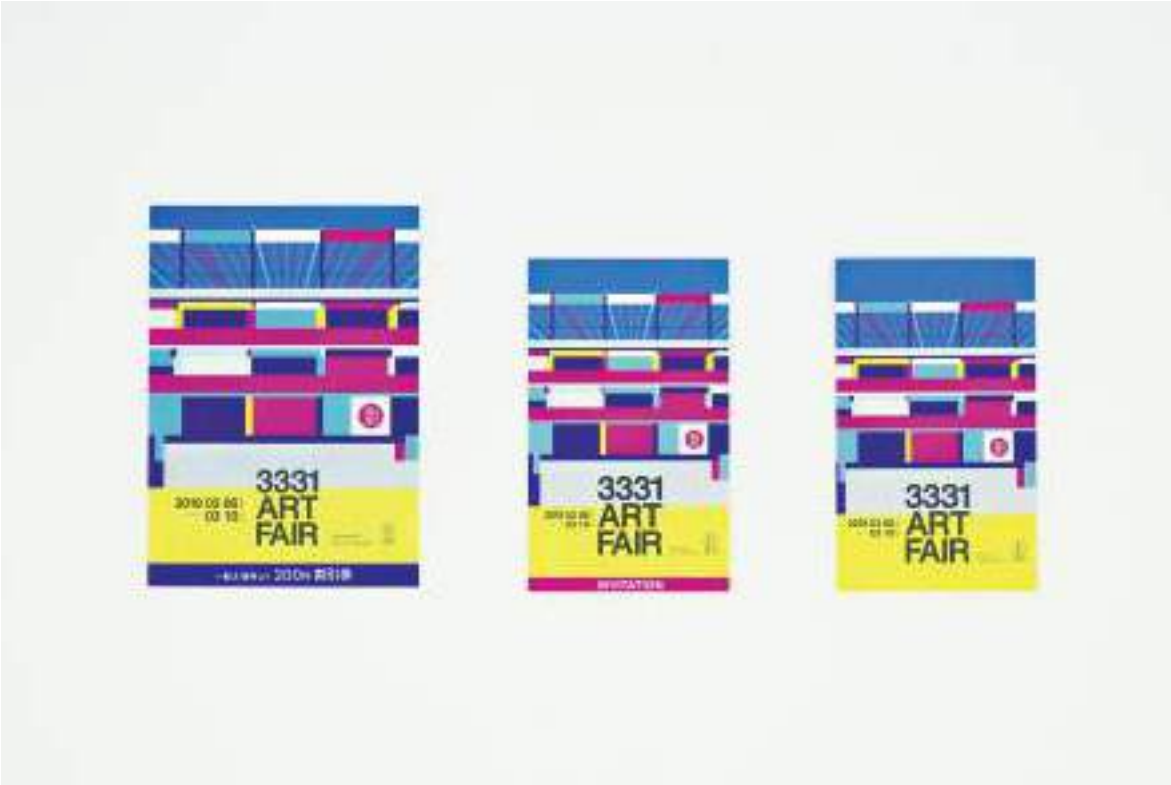


A4 フライヤー（観音開き）

公式ガイドブック（A5 サイズ　P68）

その他制作物

招待状



チケット各種

14. 広報・プレス

掲載実績

J-WAVE “GOOD NEIGHBORS”
NHK 横浜 “ひるまえほっと”
NHK 大分 “いろどり OITA「フカイロ」”
テレビ朝日 “夜の巷を徘徊する”
テレビ東京 “東京をアートの街に！～話題沸騰” アートフェア” の魅力に迫る～”
産経新聞
河北新報
朝日新聞 DIALOG
広報千代田
ART iT
美術手帖 Web
月刊アートコレクターズ
月刊ギャラリー
CINRA.NET
TOKYO ART BEAT
BNL
DIYer(s)
アートエバンジェリスト・サロン
多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業制作展 作品集
ARTLOGUE
月刊美術
GUIDE
simple style
COCOmag
あみゅーぜん
1UP 情報局
W LIFE
FREE AWAJI BOOK
あらぶんちょ通信
Burart～ぶらっとアート
ミューぽん
いろどり OITA
COBO social magazine
他

計 42 媒体／ 51 件（各メディアの SNS 配信は含まず）

リノベーションした校舎でアートを体感

現代美術の粋 結集

6:46
鉛筆画に込めた
"別府"への思い
11年やってきて2度とないチャンスだと思っていろんな

tv asahi
施設の責任者を務めるアーティストの中村政人さん
夜の巷を徘徊する

[3331 ART FAIR 2019vol.1_2019 年 1 月 8 日]

PRESS RELEASE

報道関係者各位

東京のアートシーンが最もエキサイティングな 2019 年 3 月
アートフェアという創造の場
3331 ART FAIR 2019 開催

2019
03 06 Wed
— 03 10 Sun
3331 ART FAIR

アーツ千代田 3331 では、2019 年 3 月 6 日（水）～ 10 日（日）の 5 日間、第 8 回目となる「3331 ART FAIR 2019」を開催します。
気鋭のアーティストを紹介し、アーティストとコレクターとギャラリーを直接繋げる仕組みをつくりあげてきた 3331 ART FAIR。廃校学校の校舎を再利用する 3331 の特性を生かし、地下から屋上までのファシリティを最大限に活用して開催します。
一般的なアートフェアとは異なるコンセプトで作られる 3331 ART FAIR は、各会場で異なるアプローチのフェアを展開。独自の運営ポリシーで活動するギャラリー、オルタナティブスペース、美術大学・団体のブースが揃い踏みする 2F 体育館の参画、本国のキュレーターや美術関係者が選出した、気鋭の若手作家や実験的な表現に焦点を当てる展覧会形式の 1F メインギャラリーの参画、そして 3331 に入居するギャラリー・団体も教室エリアとしてフェアに出展します。
会期中は、トークイベントの他、食やブックフェア、親子参加も可能なツアーなど多彩なイベントも開催。「見る楽しみ」「触る楽しみ」「参加する楽しみ」そして「知る楽しみ」が散りばめられた、アート初心者から熟練者までトータルで満足できる現代アートが楽しめる、楽しみやすく開かれた展覧会が開催です。
アーティスト主導の「場」が展開に富む中、3331 が提示する「もうひとつのアートフェア」。それは、アートシーンのこれからを予見する、オルタナティブなアートフェアです。

［このプレスリリースに関するお問い合わせ先］
3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14　TEL: 03-6803-2441（代表）　FAX: 03-6803-2442
E-MAIL: pr@3331.jp　＜担当：彦根、稲葉、岩垂＞　URL: https://www.3331.jp

1

PRESS RELEASE
3331 ART FAIR 2019 Vol.1_2/3

3331 ART FAIR 2019 のみどころ Vol.1 ※Vol.2 は 2 月上旬配信予定

1. 特別企画展「遊殺・以後 | 高山登 × 椿昇 × 日比野克彦 × 藤浩志 × 堀浩哉」

初の試みとして、若手作家の作品が並ぶ 1F メインギャラリーの会場内で、3331 独自の視点でキュレーションした特別企画展を開催。日本の現代美術の文脈や流れを感じながら、若手作家の作品を鑑賞・購入できる会場づくりを行います。
企画展は、もの派からポストもの派、ニューウェーブ、つまり 60 年代末～80 年代の時代を牽引してきた作家に焦点を当て、高山登氏、椿昇氏、日比野克彦氏、藤浩志氏、堀浩哉氏が出品。当時制作された作品を中心に、作家の生々しい制作現場が垣間見られる貴重なラフスケッチや、初公開の作品も展示・販売致します。3 月 6 日（水）の初日には、本展出品アーティストによるオープニングトークも開催いたします。（詳細は Web サイトや 2 月上旬配信予定のプレスリリース Vol.2 にてご案内致します！）

2. 韓国のギャラリー 4 団体のほか、米国からは Blum & Poe が出展

今回のフェアでは、積極的に海外からアーティストやギャラリーを誘致し、国際的なアートフェアに向けて歩みを進めます。韓国の現代アートのギャラリー 4 団体のほか、米国からは＜Blum & Poe＞が出展。東京・原宿にもブランチを構える Blum & Poe は、五木田智央や村上隆、奈良美智、李禹煥、菅木志雄など、日本やアジアの著名アーティストを積極的に海外に紹介し、日本の現代美術界に大きく貢献してきたギャラリーとして知られています。

3. ギャラリー、オルタナティブスペース、美術大学・団体のブースが揃い踏みする 2F 体育館

2F 体育館の会場では、独自の視点と運営ポリシーで活動するコマーシャルギャラリーや美術団体の競演に加え、美術系大学もブース出展し、現状のアートマーケットの活性化とともに、次世代のアートマーケットの拡充も視野に入れた取り組みを行っています。なかでも、今回滋賀県から、アーツ千代田 3331 の事業のひとつ『ポコラート』にも多くのアーティストを送り出している福祉事業所＜やまなみ工房＞がブース出展。アール・ブリュットやアウトサイダー・アートという枠を超え、より広い世界へとアートの領域を広げていきます。

3331 ART FAIR 2019 出展者一覧

体育館エリア（2F・1F 104）24 団体

＜サテライト（1F 104）＞

教室エリア（B1F・2F・3F）11 団体

［このプレスリリースに関するお問い合わせ先］
3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14　TEL: 03-6803-2441（代表）　FAX: 03-6803-2442
E-MAIL: pr@3331.jp　＜担当：彦根、稲葉、岩垂＞　URL: https://www.3331.jp

2

PRESS RELEASE
3331 ART FAIR 2019 Vol.1_3/3

メインギャラリーエリア（1F）・パブリックエリア 71 組

＜メインギャラリーエリア 作家参加者＞

関係概要

□名称：3331 ART FAIR 2019
□日程：2019 年 3 月 6 日（水）～ 10 日（日）5 日間
□時間：3 月 6 日（水）［ファーストチョイス]14:00- [一般公開]17:00-20:00
3 月 7 日（木）～ 9 日（土）12:00-20:00
3 月 10 日（日）12:00-18:30　※会期中の最終入場は閉場 30 分前まで
□会場：3331 Arts Chiyoda
□料金：一般：1,500 円（入場券のみ）／ 1,700 円（ガイドブック付入場券）
シニア（65 歳以上）・学生：1,300 円（入場券のみ）／ 1,500 円（ガイドブック付入場券）
※期間中再入場可 ※教室エリア無料 ※高校生以下無料
※千代田区民は身分証明書のご提示で無料 ※障害者手帳をお持ちの方とその付き添い一名様は無料
□主催：3331 Arts Chiyoda（東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14）
□後援：千代田区、一般社団法人千代田区観光協会、アーツカウンシル東京、中華人民共和国駐日本国大使館文化処、駐日韓国大使館 韓国文化院
□協賛：株式会社丹青ディスプレイ、株式会社ビビビット、COEDOBREWERY
□協力：アートのある暮らし協会、コマンド N、ソフトバンクロボティクス、パトロンプロジェクト、美術 Academy&School、ワンピース倶楽部、OSAJI、3331 Galleries
□パートナーホテル　：NOHGA HOTEL
□メディアパートナー：アートコレクターズ、月刊ギャラリー、ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン、美術手帳、美術の窓、ART iT、BNL、CINRA.NET、DIYer(s)、The Chain Museum、Tokyo Art Beat
□パートナーイベント：アートフェア東京 2019、ART in PARK HOTEL TOKYO 2019
□URL：https://artfair.3331.jp/

＜3331 ART FAIR とは＞
3331 ART FAIR は、アートシーンをつくり出す同時代の多様なビジョンを描き出し、コンテンポラリーアートの新たなコミュニティを作りあげてきました。それは、『芸術性と市場性』を問うオルタナティブなアートフェアの仕組みを構築するチャレンジ。アーティストが制作する『表現活動』と『作品』、そのどちらにも宿る芸術的価値を社会的・経済的価値として評価し、私たちのアートシーンを共に育てていきます。

パートナー企業様とのパートナーシップの詳細や、関連イベント等の内容は、2019 年 2 月上旬配信予定のプレスリリース Vol.2 にてご紹介します。

［このプレスリリースに関するお問い合わせ先］
3331 Arts Chiyoda | アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14　TEL: 03-6803-2441（代表）　FAX: 03-6803-2442
E-MAIL: pr@3331.jp　＜担当：彦根、稲葉、岩垂＞　URL: https://www.3331.jp

3

[3331 ART FAIR 2019vol.2_2019 年 2 月 20 日 最新版]

PRESS RELEASE
報道関係者各位

3331 ARTS CHIYODA

3331 ART FAIR 2019　3月6日（水）ー10日（日）まで開催！
「アートフェアという創造の場」全貌をご紹介

3331 ART FAIR 2019 概要

PRESS RELEASE
3331 ART FAIR 2019　Vol.2-3_2/8

3331 ARTS CHIYODA

3331 ART FAIR 2019 出展者一覧

体育館（2F・1F 104）24 団体

コバヤシ画廊
KANA KAWANISHI GALLERY
コウイチ・ファインアーツ
gallery G
:b Arts (COLONB ARTS)
The Soul of Soil
CONCEPT SPACE/Ais　CONCEPT SPACE/Bis
Gallery IRRITUM TOKYO
Gallery STAN
羊画廊
ONJI TAE PROJECT
藤屋画廊
トーキョーアーツアンドスペース
ART ROUND EAST
やまなみ工房
武蔵野美術大学
東北芸術工科大学 TOHOKU CALLING
多摩美術大学 アキバタマビ 21
愛知県
美学校
横浜美術大学
秋田公
東京藝術大学
＜サテライト（1F 104）＞
Blum & Poe

教室エリア（B1F・2F・3F）11 団体

アキバタマビ 21
Gallery OUT of PLACE TOKIO
Gallery KIDO Press
京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 東京ギャラリー
佐賀町アーカイブ
CfSHE Gallery
ナップ ギャラリー
パンジビナート ギャラリー
＜プロジェクトルーム＞
アーツカウンシル東京
日メ
AIR

メインギャラリー（1F）・パブリックエリア 75 組

秋山 佑太
井上 由子＋白須未青
岩村 遠
牛島 光太郎
鵜垣 彩子
蛭子 未央
遠藤 麻衣
大久保 あり
大原 舞
岡田 鉄平
片山 真理
勝 正光
川田 龍
菊谷 達史
金 仁淑
金 サジ
木村 剛士
キュンチョメ
國政 サトシ
黒宮 菜菜
小坂 学
小林 紗世子
近藤 正勝
斉と 公平太
笹岡 由梨子
澤田 華
島本 了多
下出 和美
杉浦 藍
杉山 卓朗
スクリプカリウ落合 安奈
鈴木 淳
鈴木 のぞみ
高橋 功樹
谷中 佑輔
玉田 多紀
築山 有城
寺江 圭一朗
天牛 美矢子
富田 正宜
ナカダ マコト
中村 太一
西 太志
西永 怜央菜
福田 真知
布施 琳太郎
堀 貴春
松田 啓佑
宮北 裕美
宮本 穂華
村上 慧
村田 崇一郎
村田 宗生子
持田 敦子
森 栄喜
安原 平兵衛
柳井 信乃
山元 彩香
山本 麻子
楊 瑋欣
米倉 涼太郎
迎 英里子
蓬 仲伸
李 晨旭
AINWOODS
Eunisa Lim
Mara Colombo
Patrick Cruz
＜阿刺合 鶴雲＞
黒山 雲
麓 翠
川北 明 良彦
麓 浩史
唯 浩成
ヒ・ヴジャルミア
白木 永 美穂
中村 誠之 輔

＜メインギャラリーエリア 作家推薦者＞
後小路 雅弘（九州大学大学院人文科学研究院教授）
遠藤 水城（東山アーティスツ・プレイスメント・サービス (HAPS) 代表／ヴィンコム現代美術センター芸術監督）
笠原 美智子（石橋財団ブリヂストン美術館副館長）
黒澤 浩美（金沢 21 世紀美術館チーフ・キュレーター）
出原 均（兵庫県立美術館学芸員）
服部 浩之（キュレーター）
原 久子（アートプロデューサー／大阪電気通信大学教授）
原 万希子（インディペンデント・キュレーター／秋田公立美術大学国際交流センター、アドバイザー）
福住 廣（美術評論家）
毛利 嘉孝（社会学者／東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授）

アキバタマビ 21
パンジビナート ギャラリー
CfSHE Gallery
ay chamber museum
Gallery KIDO Press
Gallery OUT of PLACE TOKIO
3331 Arts Chiyoda

屋上 8 組 new!

石毛 健太
小川 真生樹
栗原 良彰
坂口 直也
中嶋 崇
藤林 悠
やんツー
BIEN

サテライト会場 [NOHGA HOTEL UENO]

佐藤 直樹
鈴木 昭男

＜会場住所＞ 東京都台東区東上野 2

NOHGA HOTEL

［このプレスリリースに関するお問い合わせ先］
3331 Arts Chiyoda｜アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14　TEL: 03-6803-2441（代表）　FAX: 03-6803-2442
E-MAIL: pr@3331.jp　＜担当：彦根、稲葉、岩亜＞　URL: https://www.3331.jp

PRESS RELEASE

3331 ARTS CHIYODA

特別企画展「蓄積・昇華」高山登 × 榊枠 × 日比野克彦 × 藤浩志 × 堀浩哉」

PRESS RELEASE

3331 ARTS CHIYODA

3331 ART FAIR 2019 の特徴 - みどころ

1. アーツ千代田 3331 全館まることアートフェア

2. アートを愛する全ての人に開かれたアートフェア

3. 「作品を購入する事が作家に勇気を与えること」3331 ART FAIR の応援団 "プライズ&レクター"

4. ギャラリー、オルタナティブスペース、美術大学・団体のブースが揃い踏みする 2F 体育館

2F 体育館の会場では、独自の視点と運営ポリシーで活動するコマーシャルギャラリーや美術団体が出展し、展示ブースも展示し、現状のアートマーケットの活性化とともに、次世代のアートマーケットの拡充も視野に入れた取り組みを行っています。今回滋賀県から、アーツ千代田 3331 の事業のひとつ『ポコラート』にも多くのアーティストを送り出している福祉事業所＜やまなみ工房＞がブース出展。アール・ブリュットやアウトサイダー・アートという枠に囚われない、より広い世界へとアートの領域を広げていきます。

5. 韓国のギャラリー 4 団体のほか、米国からは Blum & Poe が出展

今回のフェアでは、積極的に海外からアーティストやギャラリーを誘致し、国際的なアートフェアに向けて歩みを進めます。韓国の現代アートのギャラリー 4 団体のほか、米国からは＜Blum & Poe＞が出展。東京・原宿にもブランチを構える Blum & Poe は、日本やアジアの著名アーティストを積極的に海外に紹介し、日本の現代美術界に大きく貢献してきたギャラリーとして知られています。

6. 3331 ART FAIR から生まれるアーティストの次のステップ

コレクター・プライズならびにオーディエンス投票等の結果をふまえ、アーツ千代田 3331 が選出した参考作品が 3331 ART FAIR レコメンドアーティストとして 3331 Arts Chiyoda 内での個展を開催。若手作家の作品発表の機会に繋がいたします。

［このプレスリリースに関するお問い合わせ先］
3331 Arts Chiyoda｜アーツ千代田 3331
〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14　TEL: 03-6803-2441（代表）　FAX: 03-6803-2442
E-MAIL: pr@3331.jp　＜担当：彦根、稲葉、岩亜＞　URL: https://www.3331.jp

PRESS RELEASE

「新しいアーティスト支援のかたち | The Chain Museum×3331 ART FAIR」

田中奈「場踊り」

パフォーマンス公演「合言葉 / Sweet Shibboleth」

5

PRESS RELEASE

ツアー

ビジネスパーソンのためのディレクタートーク&アートフェアツアー

「マイ・ファースト・アートを見つけよう」

6

PRESS RELEASE

ワークショップ

マーケット

TOKYO BOOK PARK × 3331

3331 NeighborFood Market

7

PRESS RELEASE
3331 ART FAIR 2019 Vol.2-3_8/8

開催概要 ※19/2/20 現在 new!!

□名称：3331 ART FAIR 2019
□日程：2019 年 3 月 6 日（水）～ 10 日（日）5 日間
□時間：3 月 6 日（水）[ファーストチョイス]14:00- [一般公開]17:00-20:00
3 月 7 日（木）～ 9 日（土）12:00-20:00
3 月 10 日（日）12:00-18:30 ※会期中の最終入場は閉場 30 分前まで
□会場：3331 Arts Chiyoda（東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14）
□料金：一般：1,500 円（入場チケットのみ）／ 1,700 円（ガイドブック付入場チケット）
シニア（65 歳以上）・学生：1,300 円（入場チケットのみ）／ 1,500 円（ガイドブック付入場チケット）
※期間中再入場可 ※教室エリア・パブリックエリア無料 ※高校生以下無料
※千代田区民は身分証明書のご提示で無料 ※障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方 1 名は無料
□主催：3331 Arts Chiyoda
□後援：千代田区、一般社団法人千代田区観光協会、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、
中華人民共和国駐日本国大使館文化部、駐日韓国大使館 韓国文化院
□協賛：株式会社丹青ディスプレイ、日本ペイント株式会社、株式会社ビビビット、COEDOBREWERY
□協力：アートのある暮らし協会、（一社）コマンド N、ストリートメディア株式会社、
ソフトバンクロボティクス株式会社、ダイヤモンドコート、パトロンプロジェクト、美術 Academy&School、
株式会社ワークス・クリエイティブ、ワンピース倶楽部、OSAJI、tokyobike、3331 Galleries
□パートナーホテル ：NOHGA HOTEL
□メディアパートナー：月刊ギャラリー、ハフポスト日本版、美術手帖、美術の窓、Art Collectors'、ART iT、BNL、
CINRA.NET、DIYer(s)、The Chain Museum、Tokyo Art Beat
□パートナーイベント：アートフェア東京 2019、ART in PARK HOTEL TOKYO 2019
□URL：https://artfair.3331.jp/

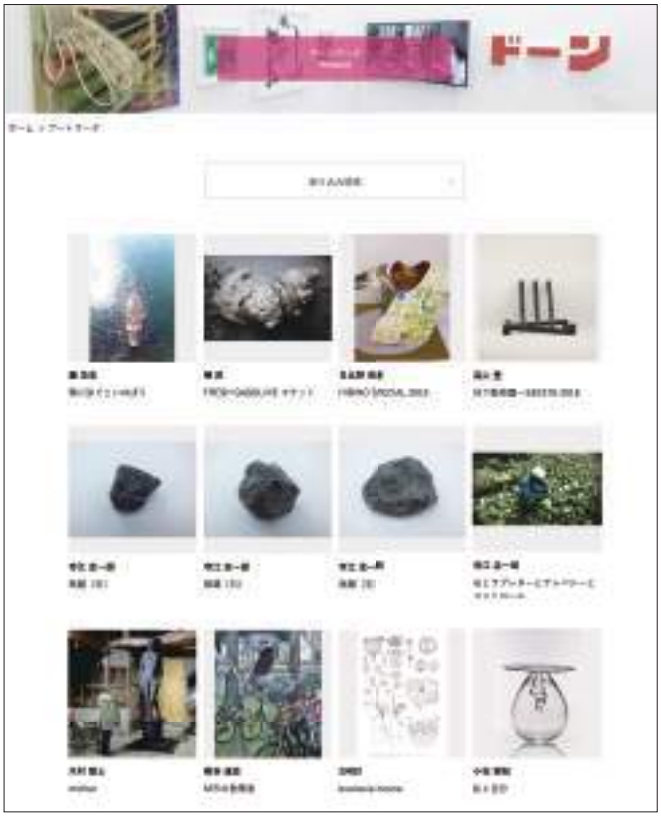
<3331 ART FAIR とは>
3331 ART FAIR は、アートシーンをつくり出す同時代の多様なビジョンを描き出し、コンテンポラリーアートへの新たな入り口や関係性をつくり出します。それは、『芸術性と市場性』を問うオルタナティブなアートフェアの仕組みを構築するチャレンジです。アーティストが描き出す[illegible]アートマーケットの拡充を目指します。

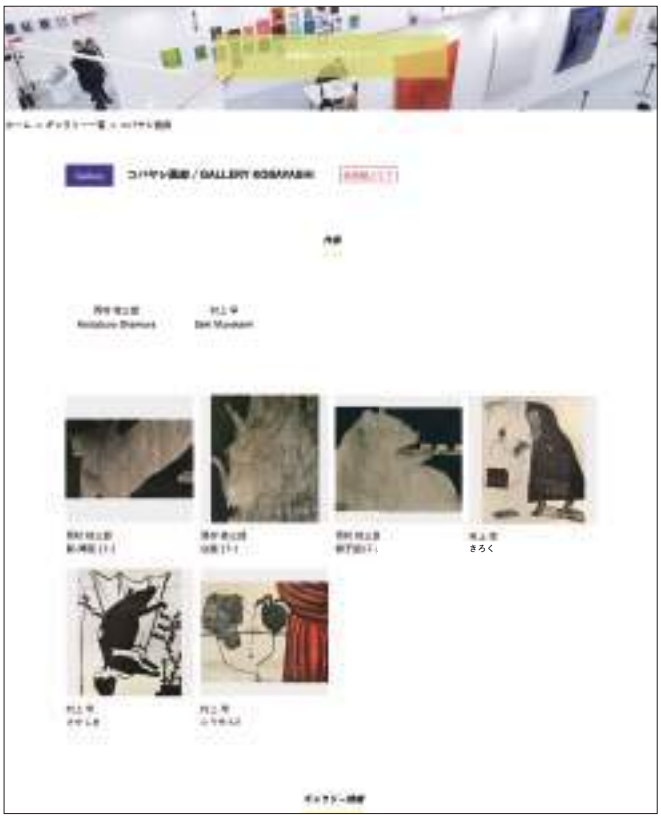
03-6803-2442

8

WEB サイト

今年度から、アーティストの出品作品を事前に確認出来るように、アートワークページを新設。
より作品への期待値の向上と、作品購買意欲を強化させた。





アートフェア期間中、SNS を積極的に活用し、リアルタイムで更新し続けたことによって多くの反響を得られた。

■3331 ART FAIR Facebook 広告（12 日間）結果

リーチ _22243 人（女性 51.5%、男性 48.5%）

ページのいいね数 _562

シェア _33 人

■3331 ART FAIR Facebook

3331 ART FAIR 2019 に関する投稿数 _58

うち期間中（5 日間）投稿数 _38

期間中のページビュー _883

期間中ページへのいいね数 _192

期間中の投稿へのリーチ _341330

期間中の投稿のエンゲージメント _4133

期間中の動画再生回数 _20918 回

※3/10 現在フォロワー数 1649 人・期間中でフォロワー 124 人アップ

3331 ART FAIR 2019 に関する
一番リーチ数の多かった Facebook 投稿

■3331artschiyoda インスタグラム

3331 ART FAIR 2019 に関する投稿数 _61

うち期間中（5 日間）投稿数 _42

期間中のリーチ数 _4806

期間中のインプレッション数 _103350

※3/10 現在フォロワー数 5445 人・期間中でフォロワー 148 人アップ

3331 ART FAIR 2019 に関する
一番いいね数の多かった
インスタグラム投稿

■3331 Arts Chiyoda twitter

期間中（5 日間）投稿数 _44

期間中のインプレッション数 _163527

期間中いいね数 _421

期間中リツイート数 _169

期間中リンクのクリック数 _455

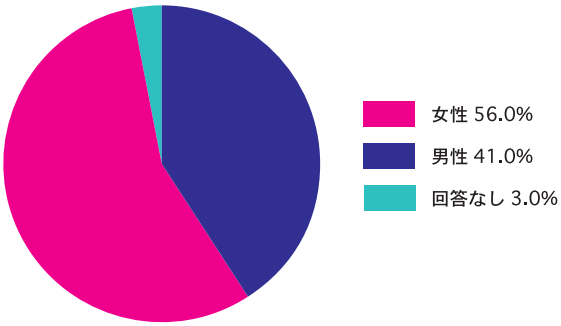
※3/10 現在フォロワー数 25528 人・期間中でフォロワー 111 人アップ

3331 ART FAIR 2019 に関する
一番エンゲージメント数の多かった
twitter 投稿

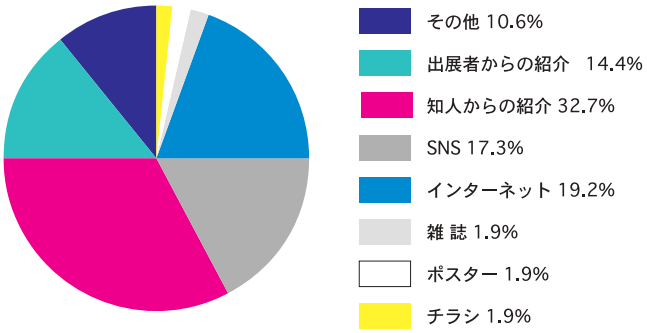
15. 各種アンケート

来場者アンケート

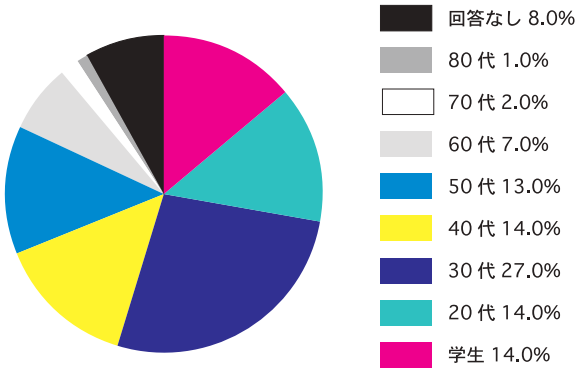
性別



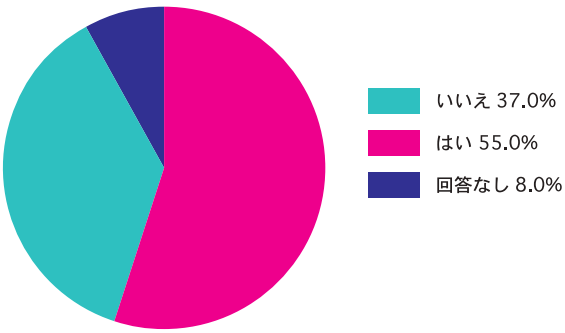
アートフェアを何で知ったか（複数回答可）



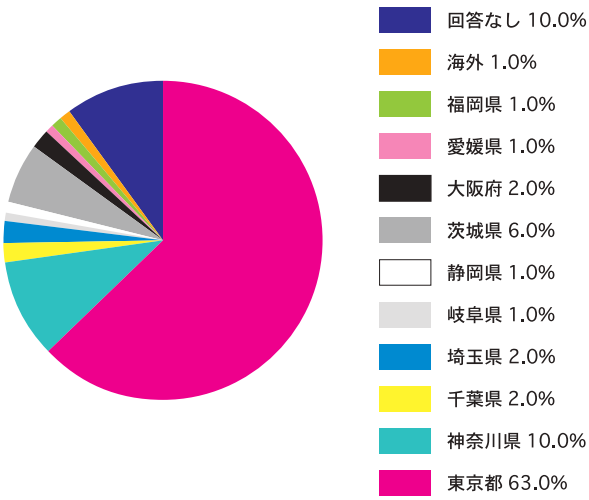
年代



美術品購入歴



お住まい



アンケート取得数 100件

アーティスト・プライズセレクター・来場者の声

眠っている頭の部分を刺激される楽しさがあった。今後もこのようなイベントがあれば是非来場したい。

ー一般来場者　匿名

買いやすい大きさや価格にした方が売れると思うけれど、「こんなものを売買するのか」というものに値がついているところがすごいと思います。

ー一般来場者　K 様

いろんな作品があってワクワクしました。すてきな作品が見れて幸せです。

ー一般来場者 匿名

アーツ千代田 3331 のメインギャラリーに加え、屋上、体育館エリアまで使った大規模な展示。マーケットが過剰に意識されておらず、見応えのある作品が多かった。

ー一般来場者　H 様

初めて来たが学校がまるごと美術館のようになっていてとても面白かった。

ー一般来場者　匿名

Blum＆Poe の作家さん達のセレクトが良かったです。
また黒瀬さんのトークも面白かった。会場で作家さんに会えるのもうれしいですね。

ー一般来場者　匿名

昨年も個人的にお伺いしたのですが、今年の方が人数が多かったように感じました。わずかでも盛り上げにご協力できていましたら幸いです。今後もアート業界に少しでも貢献できるよう微力ながら頑張ります。

ープライズセレクター　K 様

「現代アートはよく分からないし、分からないものにお金は払えないなぁ」
少し前までそう感じていた私ですが、昨年 3331 のアートフェアに初めて参加し、初めて作品を購入するという経験をしました。
我が家にやって来て一年経ったそのアート作品は、今も私の心を和ませ慰め、生活に潤いを与えてくれています。
私が作品を購入した事がアーティストにとって支援になったなら、それは大変嬉しい事です。
素晴らしいプレーを期待してスポーツチームや選手を応援するように、素晴らしい作品が生まれることを期待してアーティストを応援していく。
一方的に感動を受け取るのではなく、作品を購入してアーティストを支援する形で、アートに対して能動的な関わりを持つ事ができる。
そんなアートとの付き合い方もできるのだと、アートフェアに参加して気づく事ができました。

ープライズセレクター　K 様

3331 ART FAIR の初日の夜にお伺いいたしました。
私は高い作品を購入できるほどの収入はなく、値段でプライズを贈るアーティストを決めてしまうことに抵抗を感じ、今回の購入という形でのプライズは見送らさせていただきました。とはいえ、作品の前で何度も足を止めて購入しようかと悩みました。
今回のフェアで気になったアーティストにインタビューをしたり、冊子や本を作るといった形でいつか協力できたらと考えております。

ープライズセレクター　Y 様

いつも 3331 の催しで刺激を受けたり、様々なことを感化させられることがあり、
楽しんで足を運んでおります。会の運営等々、日ごろの皆様の運営サポートに心より御礼申し上げます。

ープライズセレクター　N 様

活気があり、作品もいいものを購入することができてよかったです。

ープライズセレクター　K 様

開かれた雰囲気でとても好感の持てるイベントでした。フードのイベントなど、他のフェアにはない企画が面白いですね。

ー某テレビ局　N さま

初参加で緊張続きの毎日でしたが、沢山の方にお越し頂き、作品のお迎えもして頂けて本当に嬉しかったです！これからもアーティストとして成長していけるように精進して参ります。ありがとうございました。

ー体育館出展作家 K 様

作品が現代アートばかりなのに、人の多さに驚いた。
だが混み過ぎてはいなくて、落ち着いて見られる。3331 は入場料が 1500 円なのも良い。他の美術館と同じぐらいの価格。

ー一般来場者　K さま

他のアートフェアにはない子供向けツアーがあり、子供と接する機会があったのはとても良かったです。

ー体育館出展作家　S 様

販売だけにフォーカスするのではなく、新たな試みとしての作品発表の場として展示することができ、とても良かった。
会場にいる他のアーティストも交流する機会にもなり、刺激になった。

ーメインギャラリー出展作家 K さま

承認欲求や作品を見せたい欲求はあるのですが、引き込もって製作する事に優先順位を設けている僕にとって物凄く、刺激的で楽しめた場でした。
本当に、あのような場所を作って下さって、また展示させて頂く機会を設けて下さって有り難う御座います以外の言葉が見つかりません。
作品購入には至らなかったですが、あともう少し製作活動を続けて行きたいと思う英気を養う事ができました。

ーメインギャラリー出展作家　O 様

搬入～フェアの会期中～本日搬出まで、大変お世話になりました。
今回、アートフェアというものに参加することが始めてでしたが、3331 スタッフみなさまの協力で、快適にやりきることができたと思っております。
本当にありがとうございました！

ーメインギャラリー出展作家　O 様

制作、設営、滞在、搬出と展示を凝縮した企画は、精神、体力ともに堪えましたが
やり終えるといろんなことが学べたような気がしています。
またお客さんや他の参加作家との交流ができました。
個別に会う約束や情報交換をしたり、ありがたい限りです。感謝いたします。
この縁をうまく活かして良い作品、良い展示を作っていきたく思います。

ーメインギャラリー出展作家　S 様

たくさんの人に見て頂き、次の発表の機会に繋がってゆき、とてもシアワセです。
作品をお買い求めくださった方々も次の発表のオープニングに来てくださり、みなさん、引き続き活動を追ってくださっていて、とても励みになりました。

ーメインギャラリー出展作家　M 様

出展ギャラリー・団体の声

アート業界のお客様だけでなく、普段画廊などにいらっしゃらない一般のお客様にもご覧いただける良い機会だと思います。また、来場者の年齢層も幅広く、様々な反応が頂けて良いと思います。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 A 様

ブース壁面及び空間が綺麗。これは作家とギャラリストにとってとても重要です。この部分が他のアートフェアと比較してももっとも優れているので、他のフェアではなく 3331 に出展しています。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 B 様

賑わいがあって作家主体の様々な試みがあり、集客力がある。別のアートフェアに出展していたり、今年はどこにも出展してなかったけれどリサーチで廻っているギャラリストからは、上記の要因があってとても良いフェアにみえる、との意見がありました。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 C 様

スタッフのみなさんの会期中の気配りやご配慮がありがたかったです。出展者専用のバックヤードがあり休憩ができるのも助かりました。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 D 様

アートフェア開催の時期が他フェアと同じ日程期間なので、お客様としては横断して見て回れる仕組みで良いのでは。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 E 様

フェア開催に伴って、様々な関連イベント（フェア関連トーク、飲食イベント、ブックマーケットなどなど）があり、展示販売を主とするフェアではあるが他イベントも盛んでとても良いと感じた。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 F 様

来場者や出展ギャラリー、出展作家の多様性がある。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 G 様

フェア入場チケットの価格が、他フェアより良心的で良いと思います。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 H 様

アートフェアでしか出会えない来場者や他ブースの交流ができ、情報共有や運営などの話しができるのは良いと感じた。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 I 様

若いアーティストの作品がたくさん見られる。他フェアと比べて、現代アートに特化しているし、面白い。

ー 教室エリア ギャラリー・団体 A 様

有名無名問わず、様々な作家の作品を鑑賞、購入できる点が良い。教室エリアのギャラリーとして、普段以上の集客があるメリット（スタンプラリーも功を奏したと思います）。

ー 教室エリア ギャラリー・団体 B 様

トークや出品作家の顔ぶれが、ただ売れている、有名であるということだけではなく、実力があり、アートにとって形式的でない「リアル」な感じがあること。

ー 教室エリア ギャラリー・団体 C 様

広い会場（1 階や屋上）で比較的大型の作品が出展できることは、他にない特徴となっているような気がします。

ー 教室エリア ギャラリー・団体 D 様

顧客層がもっと足を運ぶこと。東京都内の他のコマーシャルギャラリーの出展者が増えるといいのですが、こちらからも声掛けなどできることはしていきたいと思います。

ー 体育館エリア ギャラリー・団体 J 様

アートフェア期間中の個々のイベントの日程・時間に工夫があると良いと思いました。重なって良いイベントと、または似通ったイベントでお客さんが偏らないように時間差があると良いものなどがありましたので、時間割に工夫や、企画段階で日程などの情報共有ができると良いかと思います。

ー 教室エリア ギャラリー・団体 E 様

16. アートフェアという創造の場。フェアを作った人々

屋上
エリア

3331 ART FAIR 2019

総合ディレクター

中村 政人 Masato Nakamura

統括マネージャー

彦根 延代 Nobuyo Hikone	企画・制作・渉外・広報・「遊殺・以後」展・販売

運営事務局

アーツ千代田 3331 / 3331 Arts Chiyoda

稲葉 智子 Satoko Inaba	広報・渉外・関連イベント・販売
岩垂 なつき Natsuki Iwadare	広報・渉外・プライズセレクター・レセプション・販売
エミリー・マクドウェル Emily MCDOWELL	翻訳・AIR 3331・海外作家担当・販売
嘉納 礼奈 Rena Kano	2F 体育館レセプション
河内 彰 Akira Kawachi	映像制作・記録
河原 功也 Koya Kawahara	企画・屋上作家担当・パブリックエリア施工
川元 眞理子 Mariko Kawamoto	会計
木村 博行 Hiroyuki Kimura	企画・2F 体育館エリア出展ギャラリー統括・渉外・海外作家担当
櫻林 恵美理 Emiri Sakurabayashi	アドミニストレーター
佐々木 香織 Kaori Sasaki	企画・販売統括・レセプション・渉外・販売
佐々木 浩一 Koichi Sasaki	アドミニストレーター
宍戸 遊美 Yuumi Shishido	展示アドバイザー・関連イベント・販売
武田 将臣 Masaomi Takeda	施設管理・関連イベント
玉置 真 Makoto Tamaoki	企画・1F メインギャラリー作家担当・施工・関連イベント・販売
中村 侑子 Yuko Nakamura	関連イベント
西川 汐 Yu Nishikawa	海外作家担当
西山 沙樹 Saki Nishiyama	プライズセレクター・教室エリアギャラリー・レセプション・販売
藤谷 けい Kei Fujiya	企画・アートディレクション・デザイン・Web・ガイドブック
森本 早紀 Saki Morimoto	関連イベント統括
吉倉 千尋 Chihiro Yoshikura	関連イベント・AIR 3331
米窪 由樹子 Yukiko Yonekubo	企画・2F 体育館施工・パブリックエリア・サイン計画・販売

（五十音順）

3331 ART FAIR 2019 運営事務局（アーツ千代田 3331 内）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 6 丁目 11-14

03－6802－2441（代表）

af@3331.jp

artfair.3331.jp

3331
ARTS CYD